

第 1 回

学生生活実態調査

1990年

日本赤十字看護大学



## 第1回学生生活実態調査報告書刊行にあたって

日本赤十字看護大学が1986年（昭和61年）に開学して以来、学生委員会は学生が正課教育以外の諸活動を通じて、より豊かな人間形成を図ることができるように、その私的・公的な生活を援助してきました。本学は建学途上であり、また学生数240名という単科大学であるということから、委員会活動の結果が十分に生かされたとは言い難い面が多々あります。しかしながら委員会は、諸々の課題に果敢に挑戦し、直面する問題に積極的・建設的に取り組んでまいりました。

開学して満4年が経過した機会に、学生委員会では今後の本学の福利厚生および学生指導の改善に資する目的も含め、学生生活全般、寮生活、通学などについて本学学生がどのように受けとめているかを全体的に調査しようということになり、1989年第57回教授会に諮ったところ了承されました。調査票の作成、調査の実施、結果のまとめ、報告書の作成にいたる一連の作業は佐藤眞委員、山本捷子委員、平野かよ子委員が中心となって進められました。データの集計には島村忠義助教授の御協力を得ました。これがその報告書です。

私立大学連盟が1988年に行なった学生生活実態調査の結果と比較検討しておりますので、本学の特徴も明らかにされていると思われまます。

最近では、大学の設置基準の大綱化や大学の自己評価が重要視されてきています。この意味からもこの学生生活実態調査報告書は単に現状を把握するためばかりでなく、今後の本学の施策に役立つ貴重な資料になるものと確信しています。

本調査にあたって立案から実施まで御努力、御協力してくださいました各委員の方々、学生課職員、そして回答された学生の皆さんに厚く御礼申し上げます。

なお、本調査に関わった1989年度より1991年度までの学生委員会メンバーは次の通りです。

稲岡文昭教授	工藤綏夫教授	岩浅農也教授	南野知恵子教授
千原光雄教授	佐藤眞助教授	小玉正博助教授	佐藤栄子助教授
山本捷子講師	福島道子講師	平野かよ子講師	

1992年2月14日

日本赤十字看護大学学生部長

学生委員会委員長 稲岡文昭

# 目 次

## 第1回学生生活実態調査報告書刊行にあたって

<調査の基本事項>.....	1
I. 調査方法        II. 調査結果        III. 結果の概要	
<結果とデータ>	
I. 住居に関する状況	
1. 住居の種類.....	4
2. アパート・マンションの場合の住居の状況.....	4
3. 通学に要する時間.....	6
4. 住居の満足度.....	6
II. 寮生活について	
1. 寮生活の満足度.....	7
2. 寮生活で良いと思うこと.....	7
3. 寮生活で困ること, いやなこと.....	8
4. 寮生活について思うこと (自由記述のまとめ) .....	9
5. 寮の食事について.....	10
6. 外泊の割合.....	11
7. 全寮制度についての考え.....	12
III. 経済生活について	
1. 1か月平均の総支出額.....	13
2. 1か月平均の食費.....	14
3. 自宅外通学生の1か月平均の住居費.....	15
4. 1か月平均の勉学費.....	15
5. 1か月平均の通学のための交通費.....	17
6. 家族等からの1か月平均の援助金額.....	17
7. 奨学金.....	18
8. ローン・クレジット等の利用状況.....	19
IV. アルバイトについて	
1. アルバイトの実施状況 (頻度・回数・時間) .....	20
2. アルバイトの主な目的.....	22
3. アルバイトの職種と賃金.....	23

V. 健康状態について	
1. 日頃の健康状態	26
2. 治療している病気	27
3. 寮生活から通学になったことによる健康上の変化	27
4. ポジティブヘルス	27
5. 精神の健康について	28
6. 不安や悩みの解決方法	30
VI. 生活時間について	
1. 大学およびその周辺で過ごす時間	31
2. 自宅・アパート・下宿・寮などで過ごす時間	35
3. その他の場所で過ごす時間	37
VII. 課外活動の状況	
1. クラブ・サークル活動状況	41
2. クラブ・サークルの参加目的	42
3. 以前参加していたがやめた主な理由	43
4. 最初から参加していない主な理由	44
5. 今年度の夏季休暇中の主な行動	45
6. 資格や技術取得のための講座や各種学校・塾での学習	46
7. 希望する課外教育プログラム	47
VIII. 海外旅行について	
1. 海外旅行の経験状況	48
2. 行先・目的・日数・費用・主催	49
IX. 大学生活について	
1. 本学を選んだ理由	55
2. 本学に入学したことについて	56
3. 本学での勉学を続けることについて	57
4. 大学生活の中で大切だと思っていること	58
5. 学生生活の充実度	59
6. 大学に対する期待や要望	60
X. 卒業後の進路について	
1. 卒業後の予定	62
2. 就職の職種と就職先	63
3. 卒業後の進学について	64
付録<調査用紙>	65



## I. 調査方法

1. 方法：私立大学連盟が行なっている学生生活実態調査を参考にして自記式質問用紙を作成し、昭和61年度入学生と63年度入学生は1990年（平成2年）1月下旬、62年度入学生と平成1年度入学生は同年4月下旬に全員に配布し、数日後に回収した。
2. 調査内容：住居、寮生活、経済、アルバイト、健康、生活時間、課外活動、海外旅行、大学生活全般、卒業後の進路に関する10項目。

## II. 調査結果

1. 配布総数232、回収数183、回収率78.9%であった。

	配布月日	配布数	回収数	回収率 %
61年度生	H2年1月30日	58	52	89.6
62年度生	H2年4月23日	58	47	81.0
63年度生	H2年1月25日	57	43	75.4
H1年度生	H2年4月23日	59	41	70.0
合計		232	183	78.9

2. 調査結果は、単純集計を行ない、表および学年比較グラフで示した。図表の<61年度>は昭和61年度入学生、即ち4年生であり、以下<62年度>、<63年度>、<H1年度>はそれぞれ62年度入学生（3年生）、63年度入学生（2年生）、平成1年度入学生（1年生）に対応する。

## III. 結果の概要

1. 住居および寮生活について

1・2年生は全員が規定により大学に隣接した養心寮に住んでおり、3および4年生は通学している。3・4年生の住居は4分の1が自宅、4分の3がアパート・マンションであり、アパート・マンションの場合は、7～8割がキッチン・風呂・トイレ付きの6畳一間で、その大半が満足している。

1・2年次に寮生活を送ることについての満足度は、全体平均で20%と低い。寮生活で良いことの1番目は「通学時間が短いこと」であり、2番目が「友人との深いつき合い」が挙げられている。一方、困ること・いやなことでも「友人との人間関係」がトップに挙げられている。

また、寮の食堂の食事の量や質の悪さ、各フロアの補食のためのキッチンの設備・備品の不十分さなど、食事に関する不満が高い。

全寮制度については、「希望者だけが入寮すればよい」と回答した者が全学年の平均でも65%と高率である。

## 2. 経済生活について

1か月の総支出額は、全学年の平均は5～7万円で、そのうち食費が2～3.5万円を占め、校納金を除く勉学費は8千円以下である。3・4年生のうち自宅外通学生の住居費は7～10万円である。家族からの援助は1・2年生では4～6万円、3・4年生は10～14万円である。

## 3. アルバイトについて

ほとんど全員がアルバイトをしており、約半数が経常的に行なっている。その目的は、半数が旅行・レジャー費用である。

アルバイトの全体的な状況は、頻度は1か月間に5～12日（週2～3日）、時間は1日4～5時間、賃金は時給700～900円、職種はウェイトレス等のサービス業が最も多い。この状況は一般大学生並みである。

## 4. 健康状態について

全体的には1年に1～2回風邪を引く程度で大体好調である者が大半を占めるが、通学や実習の多い3・4年生に不調の率が高い。適度な食事・休養・睡眠に気をつけて健康状態を調節しているが、積極的な健康管理をしている者は少ない。

寮生活と通学による健康状態の違いでは、通学生活になってからのの方がむしろ健康的だと感じている者が多い。

## 5. 生活時間について

本学学生の1日の平均的な生活時間は、大学で過ごす授業などの正課時間が6～8時間以上、睡眠6～8時間、学習時間は1～2時間以内、自由時間2～5時間、通学1～2時間以内である。アルバイトをする日は4～5時間が正課時間以外の時間からとられている。

## 6. 課外活動および海外旅行について

1・2年生で7割、3・4年生では3割の人が学内外を含めたクラブ・サークル活動に参加している。参加しない人たちの理由は、学業と両立が困難、アルバイトや通学時間の関係で無理としているのが大半を占めている。また「初めから参加しない」のは、「入りたいと思うクラブがない」が主な理由である。

夏期休暇中の活動では、アルバイトと国内および海外旅行が5割を占め、ついで正課のための勉学が2割弱である。

入学以来の海外旅行の経験者の割合は、4年生では6割、3年生では5割、全学年平均でも4割である。行先は、アメリカ、東南アジア、ヨーロッパで、その目的の主なものは観光あるいは語学研修である。東南アジアにはボランティアやゼミを目的としている。

## 7. 大学生活に関する意識に関して

本学を選んだ理由は、「将来や就職のことを考えて」と「教育内容・専攻分野」が3分の2を

占めている。

本学に入学したことについて、よかったとする者は全学年平均で3割強であるが、「どちらとも言えない」が約半数を占めている。このまま勉学を続けるかどうかについては、1・2年生の9割強が「このまま進む」に対して、3・4年生では5～6割と減少し、反対に他の大学への転学や進路変更を希望する率が3～4割と高くなっている。

学生生活の充実度は、「とても」「かなり」「まあまあ」の合計が8割であり、肯定的といえる。しかし、4年生では「あまり」「全然」が4分の1で他の学年に比して多い。

「大学へ望むこと」の中で多いのは、「カリキュラムの改善」が3割で、特に4年生の約半数がこれを挙げている。ついで「教授陣の充実」「学生寮の改善」が多い。

## 8. 卒業後の進路

日本赤十字社救護看護婦養成規則にもとづく日本赤十字社各県支部の社費や日本赤十字社医療センターの貸費を受けている学生が、4年生は85%、他学年でも65～50%である。卒業後の数年間は、日本赤十字社関連の病院に就職することを契約している。

私費生は、3割弱であるが、そのうち各学年中2～4名は日本育英会の奨学金を受けている。

卒業後は、殆ど全員が看護婦として、病院に勤務することを考えている。わずかであるが、大学院や助産婦学校等への進学を希望している者もいる。

本調査をまとめてみると、本学の学生生活は、1・2年次に学生寮を住居とすることと、社費・貸費制度による卒業後の進路の決定に伴う問題がある以外は、課外活動の低調さ、アルバイトや海外旅行を楽しむという状況はほぼ一般の大学学生と同様の傾向があるといえよう。

# I. 住居に関する状況

## 1. 通学生の住居の種類

1. 2年生は全員大学に隣接する学生寮に居住している。3・4年生は通学制である。自宅から通学している人が約1/4で、残りの3/4はアパートやマンション住いである。

表1. 住居の種類 (%)

住居	H11年度	63年度	62年度	61年度	合計
自宅	0	0	11(23.4)	13(25.0)	24(13.1)
下宿・アパート・マンション	0	0	36(76.6)	39(75.0)	75(41.0)
大学の学生寮	41	43	0	0	84(45.9)

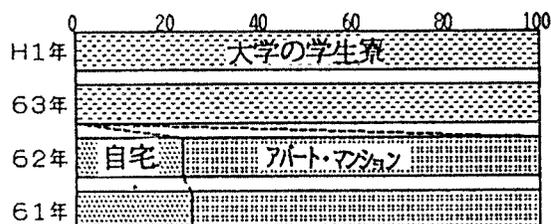


図1. 住居の広さ

## 2. アパート・マンションの場合の住居の状況

広さは45%が6畳一間で、同居者がいる場合は2Kまたは2DKである。設備としては、約7割に個人用の風呂とトイレがついており、約8割にキッチンがついている。

表2. 住居の広さ (%)

広さ	62年度	61年度	合計
4.5 畳一間	3(6.3)	6(11.5)	9(9.1)
6 畳一間	17(36.1)	27(51.9)	44(44.4)
2DK・2K	14(29.8)	7(13.5)	21(21.2)
3DK以上	1(2.1)	0	1(1.0)
NA	12(25.5)	12(23.0)	24(24.2)

I. 住居に関する状況

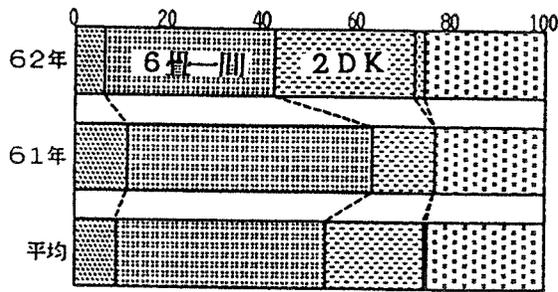


図2. 住居の広さ

表3. 部屋の設備状況

(%)

設備	風呂		トイレ		キッチン	
	62年度	61年度	62年度	61年度	62年度	61年度
個人用	29(61.7)	30(57.7)	31(66.0)	35(67.3)	38(80.9)	40(76.9)
共用	5(10.6)	1(1.9)	7(14.9)	5(9.6)	0	0
無し	4(8.5)	9(17.3)	0	0	0	0
NA	9(19.1)	12(23.0)	9(19.1)	12(23.0)	9(19.1)	12(23.0)

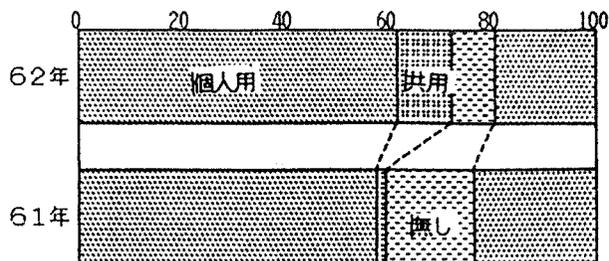


図3. 個人用風呂の有無

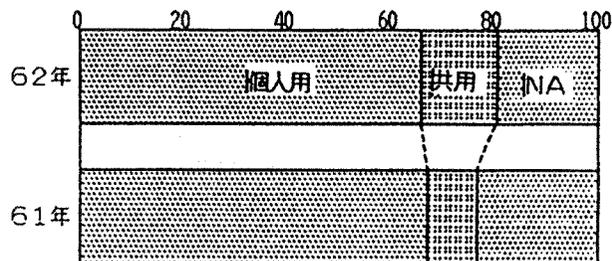


図4. トイレの有無

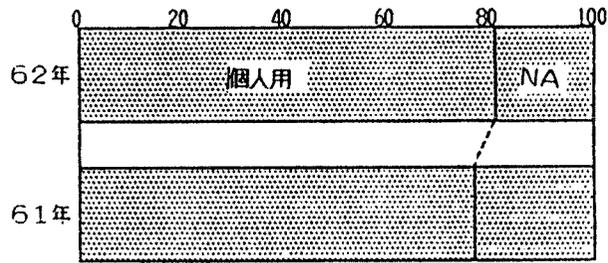


図5. キッチンの有無

### 3. 通学に要する時間

75%の人が1時間以内で通学できる所に住んでいる。

表4. 通学所要時間 (片道) (%)

所要時間	62年度	61年度	合計
30分以内	13(27.7)	20(38.5)	33(33.2)
30分～1時間以内	22(46.8)	20(38.5)	42(42.3)
1時間～1時間30分以内	8(17.0)	7(13.5)	15(15.5)
1時間30分～2時間以内	3(6.4)	4(7.7)	7(7.0)
2時間以上	1(2.1)	1(1.9)	2(2.0)

### 4. 住居の満足度

約60%の人が満足している。

表5. 住居の満足度 (%)

満足度	62年度	61年度	合計
満足している	30(63.8)	30(57.7)	60(60.6)
満足していない	9(19.1)	14(26.9)	23(23.2)
どちらともいえない	8(17.0)	8(15.4)	16(16.1)

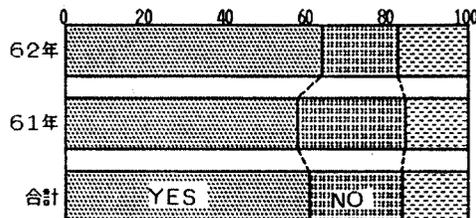


図6. 住居の満足度

## II. 寮生活について（3. 4年生は在寮中の感想）

### 1. 寮生活の満足度

全体の42%が「どちらともいえない」と答えているが、「満足していない」学生も37%と同程度である。特に4年生の半数が「満足していない」と答え、反対に「満足している」と答えたのは2年生の35%が最も多い。

表6. 寮生活の満足度

(%)

満足度	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
満足している	8(19.5)	15(34.9)	10(21.3)	5(9.6)	38(20.8)
満足していない	15(36.6)	10(23.3)	17(36.2)	25(48.1)	67(36.6)
どちらともいえない	17(41.5)	18(41.9)	20(42.6)	22(42.3)	77(42.1)
NA	1(2.4)	0	0	0	1(0.5)

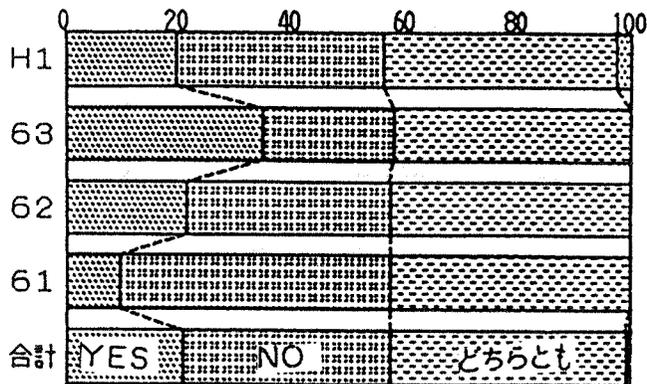


図7. 寮生活の満足度

### 2. 寮生活で良いと思うこと

全体では「通学距離が短い」が31%で最も多く、次いで「友人と深いつきあいができる」が26.2%である。以下「学習・自由時間が多い」21.4%、「親元から離れて独立できる」9.4%である。

在寮中の1・2年生と、通学生である3・4年生の間に目立った違いは見られない。

「経済的に安上がり」という答は全学年を通して少ない。

表7. 寮生活で良いと思うこと(2項目の合計)

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
友人と深いつきあい	12(15.0)	29(33.7)	14(25.8)	27(29.3)	92(26.2)
共同生活、協調精神	2( 2.5)	6( 7.0)	5( 5.4)	5( 5.4)	18( 5.1)
親元から離れて独立	11(13.8)	8( 9.3)	8( 8.6)	6(6.5)	33( 9.4)
通学距離が短い	34(42.5)	27(31.4)	29(31.2)	18(19.6)	108(30.7)
学習・自由時間が多い	14(17.5)	12(14.0)	23(24.7)	26(28.3)	75(21.4)
経済的に安上がり	0	4( 4.7)	3( 3.2)	8( 8.7)	22( 6.3)
都心に近い	0	0	1( 1.0)	1( 1.0)	2( 0.6)
その他	0	0	0	1( 1.0)	1( 0.3)

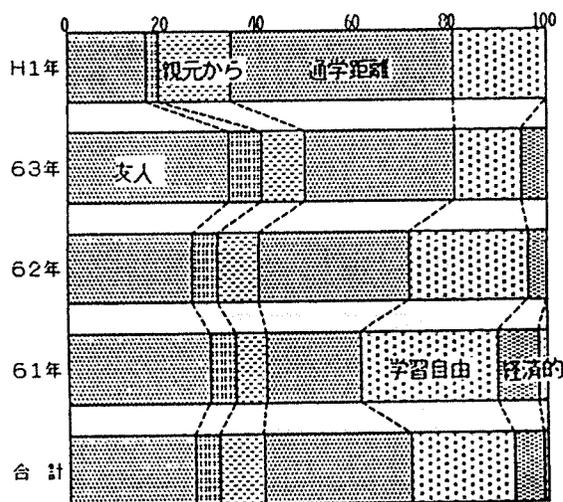


図8. 寮生活で良いと思うこと

### 3. 寮生活で困ること、いやなこと

「友人との人間関係」をあげた学生が23.5%で最も多い。「食事」が19%、「寮の規則」が17.7%、「寮内の設備・管理」が16.2%と続いている。

「友人との人間関係」が前項の「寮生活で良いと思うこと」の両方に高い割合であらわれているのは、寮生活における「友人との人間関係」の占める位置の大きさを示しているのであろう。

表8. 寮生活で困ること・いやなこと（2項目）

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
友人との人間関係	20(25.3)	16(20.8)	18(21.2)	17(27.4)	81(23.5)
寮監との人間関係	2( 2.5)	7( 9.0)	2( 2.4)	3( 3.2)	14( 4.1)
寮の規則	11(13.9)	14(18.0)	17(20.0)	19(22.4)	61(17.7)
役割分担	3( 3.8)	7( 9.0)	8( 9.4)	2( 2.4)	20( 5.8)
室内設備	13(16.5)	7( 9.0)	6( 7.0)	5( 5.3)	31( 9.0)
寮内設備	18(22.8)	10(13.0)	19(22.4)	9( 9.5)	56(16.2)
食事	10(12.7)	11(14.3)	18(21.2)	27(28.4)	66(19.0)
その他	2( 2.5)	6( 6.5)	1( 1.2)	3( 3.2)	11( 3.2)
なにもない	0	2( 2.6)	3( 3.5)	0	5( 1.5)

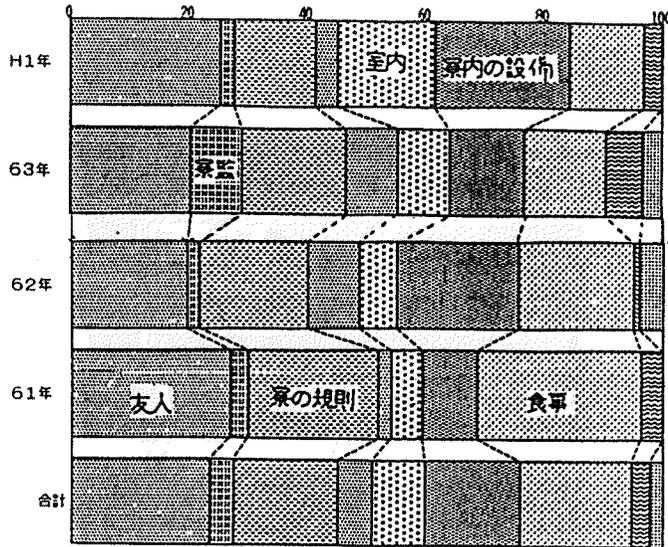


図9. 寮生活で困ること、いやなこと

4. 寮生活について思うこと（自由記述のまとめ）

- 1) 「人間関係」については、「一人になれる時間がない」という記述が各学年に多数あり、ひとりの時間を望みながらもそれができず、同室者に気兼ねしながら暮している様子がうかがえる。
- 2) 寮の設備に関する不満の中では、特にキッチンに対する要望が多い。次項の食堂の食事に対する不満とも関連するが、自分で調理しようとしてもその設備が不十分であると感じている者が多い。

## 5. 寮の食事について

「種類が少なく食べる物がない」が47%、「栄養のバランスがとれない」が、31%で、寮の食事に対する不満が高い。

表9. 寮の食事について思うこと（2項目）

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
値段が手頃で良い	1( 1.3)	7( 9.2)	1( 1.1)	5( 4.8)	14( 4.6)
好きな物が食べられる	2( 2.6)	5( 6.6)	1( 1.1)	0( 0 )	8( 2.6)
種類が少ない、	33(43.4)	27(35.5)	42(47.7)	41(39.0)	143(46.6)
栄養のバランスわるい	2( 2.6)	28(36.8)	32(36.4)	33(31.4)	95(31.1)
量が少ない	4( 5.3)	1( 1.3)	2( 2.3)	3( 2.9)	10( 3.3)
その他	4( 5.3)	8(10.5)	10(11.4)	14(13.3)	36(11.8)

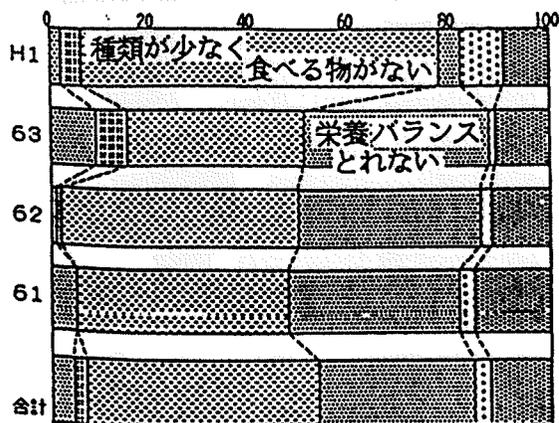


図10. 寮の食事について思うこと

6. 外泊の割合

各学年を通して「1か月に1～2回」という回答が最も多く、全体では49%となっている。ついで「毎週1回」が25.7%、「長期休暇以外は外泊しない」のは21.4%である。

表10. 外泊の割合

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
1か月に1～2回	17(41.5)	21(48.8)	25(53.2)	27(51.9)	90(49.1)
毎週1回	10(24.4)	16(37.2)	7(14.9)	14(26.9)	47(25.7)
週に2～3回	0(0)	0(0)	1(2.1)	3(5.8)	4(2.2)
ほとんど毎日	0(0)	0(0)	0(0)	1(1.9)	1(0.6)
外泊しない	14(34.1)	6(14.0)	14(29.8)	7(13.5)	41(21.4)

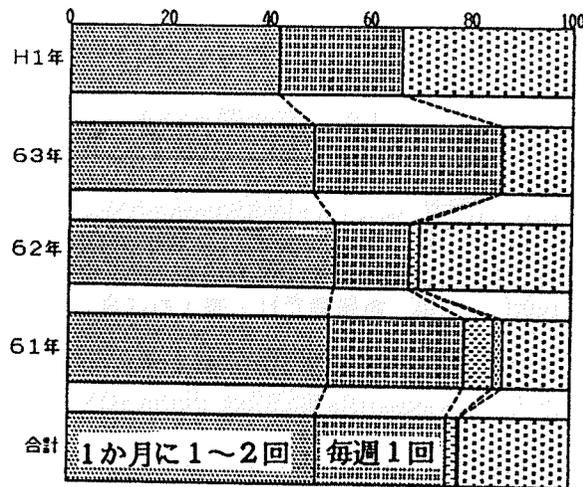


図11. 外泊の割合

## 7. 全寮制についての考え

全寮制をどう思うかについては、「希望者だけ入寮すれば良い」という答が最も多く、68%を占める。「在学中何年かは全寮制が良い」は16%、「現在の全寮制が良い」は10%にすぎない。

「希望者だけ入寮すれば良い」の回答を学年別にみると、1年生は6割、2年生は5割、3年生と4年生は約8割であり、通学生の方に割合が高い。

表11. 全寮制について

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
現在の全寮制が良い	7(17.1)	7(16.3)	4(8.5)	0	18(9.8)
全員通学制が良い	0	1(2.3)	0	4(7.7)	5(2.8)
何年かは全寮制	6(14.6)	12(27.9)	6(12.8)	5(9.6)	29(15.8)
希望者だけ	25(61.0)	22(51.2)	37(78.7)	40(76.9)	124(67.8)
その他	3(7.3)	1(2.3)	0	3(5.8)	7(3.8)

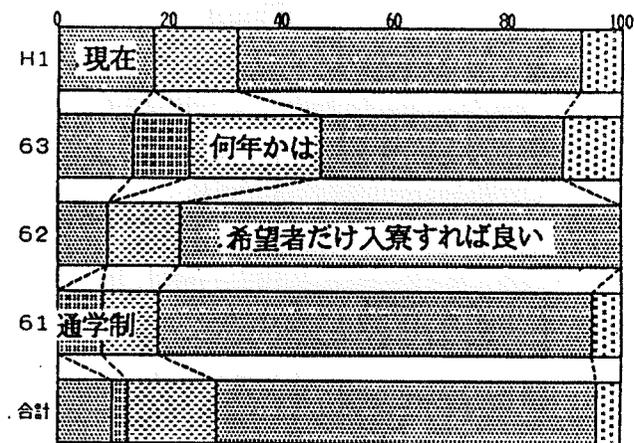


図12. 全寮制度についての考え

### Ⅲ. 経済生活について

#### 1. 1 か月平均の総支出額

在寮している1・2年生では5万～7万円が多く、通学生では12万円が最も多い。全国私大調査の自宅通学生では15万円以上を占めていることと比較すると、やや少ない額で生活しているようである。

表12. 1 か月平均の総支出額 (単位: 万円) (%)

金額	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計	私大全国	私大自外
～1	0	0	1(2.1)	0	1(0.5)	0.4%	0.2%
1～3	2(4.9)	3(7.0)	2(4.3)	5(9.6)	12(6.6)	5.1	0.2
3～5	15(36.6)	8(18.6)	6(12.8)	3(5.8)	32(17.5)	11.3	0.7
5～7	20(48.8)	22(51.1)	2(4.3)	5(9.6)	49(26.7)	14.0	1.8
7～10	3(7.3)	8(18.6)	6(12.8)	5(9.6)	22(12.0)	10.1	2.9
10～12	0	1(2.3)	7(14.9)	9(17.3)	17(9.3)	11.6	5.3
12～15	0	0	15(31.9)	15(28.8)	30(16.4)	6.2	5.9
15～20	1(2.4)	1(2.3)	5(10.6)	7(13.5)	14(7.7)	6.3	9.6
20～	0	0	1(2.1)	1(1.9)	2(1.1)	7.6	10.2
NA			2(4.3)	2(3.8)	4(2.2)	4.0	8.8

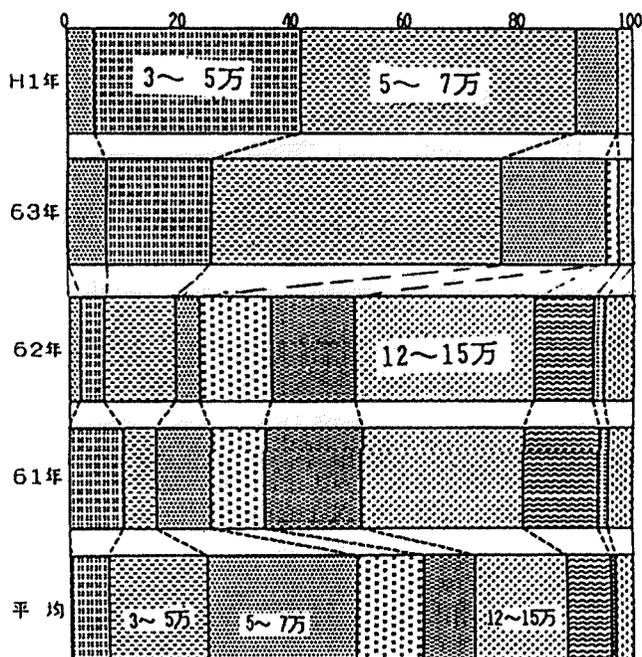


図13. 1 か月平均の総支出

## 2. 1 か月平均の食費（自宅外通学者は食費，自宅通学者は外食費）

1年生の半数以上が1.5万円から2.5万円の範囲を占めているが、同じ寮生でも2年生は通学している3・4年生と同様で、2万円から3.5万円が半数以上を占めている。

全国私大の自宅外通学生では3～4.5万円が約半数である。本学の学生は全国の平均から見ると食費にかかる経費は少ないが、入寮していることで食費が少なくなることはないようである。

表13. 1 か月平均の食費（単位：千円）（%）

金額	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計	私大全国	私大自外
～5	0	0	2(4.3)	4(7.6)	6(3.3)	9.0%	4.1%
5～10	2(4.9)	0	2(4.3)	2(3.8)	6(3.3)	17.0	2.7
10～15	7(17.0)	0	10(21.3)	7(13.5)	24(13.1)	15.2	3.2
15～20	11(26.8)	9(20.9)	2(4.3)	2(3.8)	24(13.1)	10.3	4.6
20～25	12(29.3)	9(20.9)	9(19.1)	9(17.3)	39(21.3)	11.7	11.1
25～30	2(4.9)	3(7.0)	3(6.4)	3(5.8)	11(6.9)	4.5	7.7
30～35	6(14.6)	7(39.5)	11(23.4)	17(32.7)	51(27.9)	15.8	30.0
35～40	0	1(2.3)	0	1(1.9)	2(1.1)	3.7	8.3
40～45	1(2.4)	2(4.7)	2(4.3)	3(5.8)	8(4.4)	6.9	15.2
45～50	0	0	0	0	0	1.5	3.4
50～55	0	1(2.3)	2(4.3)	3(5.8)	6(3.3)	2.9	6.2
55以上	0	1(2.3)	1(2.1)	1(1.9)	3(1.6)	1.5	3.4
NA	0	0	3(6.4)	0	3(1.6)	—	—

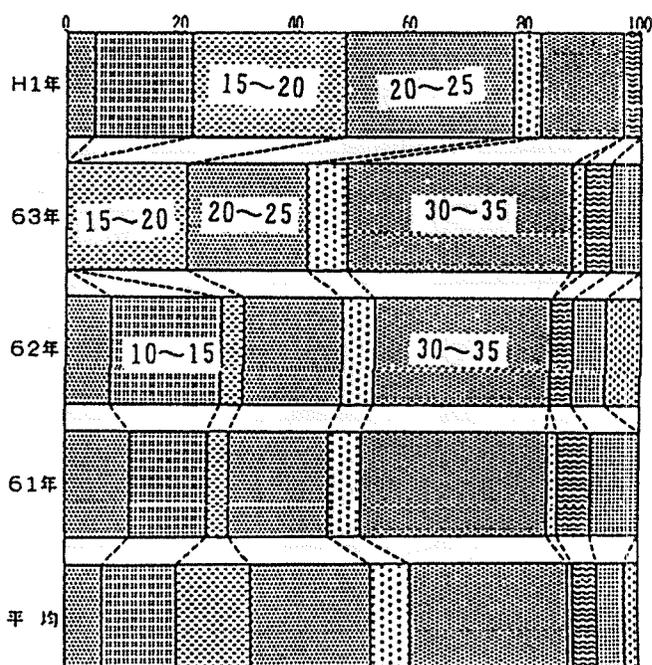


図14. 1 か月平均の食費

3. 自宅外通学生の1月平均の住居費（家賃・光熱水費等を含む）

約50%強の学生は7万～10万円であり，約1/4の学生は5～7万円である。  
 全国私大調査の自宅外通学生の平均は7～10万円で，ほぼ全国並みといえる。

表14. 自宅外通学生の1月平均の住居費 (%)

金額（万円）	62年度	61年度	合計	私大全国
～ 3	1 ( 2.8)	3 ( 7.7)	4 ( 5.3)	—
3～ 5	5 (13.9)	5 (12.8)	10 (13.3)	12.1 %
5～ 7	11 (30.5)	8 (20.5)	19 (25.3)	9.3
7～10	16 (44.4)	19 (48.7)	35 (46.7)	11.9
10～12	1 ( 2.8)	1 ( 2.6)	2 ( 2.7)	6.0
12～	1 ( 2.8)	1 ( 2.6)	2 ( 2.7)	7.3
NA	1 ( 2.8)	2 ( 5.1)	3 ( 4.0)	—
自宅外通学者数	36人	39人	75人	—

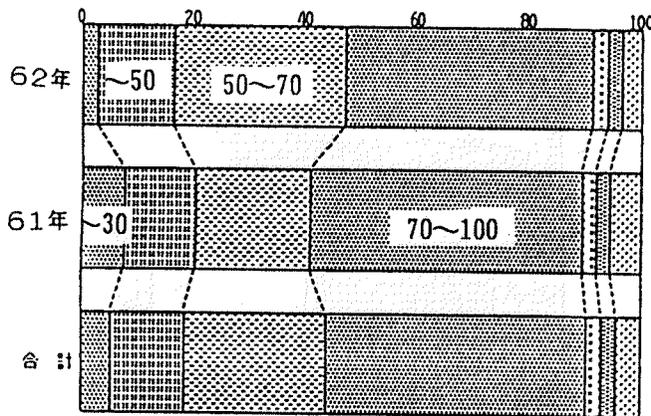


図15. 自宅外通学生の1月平均の住居費

4. 1か月平均の勉強費（教科書・参考書・コピー・文具費・研究費等,但し学納金を除く）

全体では4～8千円が最も多く，次いで4千円以下であり，全体の6割の学生は8千円以内である。参考書や専門書の購入状況を調べなければ明らかでないが，この額からすると専門書等の購入は少ないのではないだろうか。

表15. 1か月平均の勉学費

(%)

金額 (千円)	H1年	63年	62年	61年	合計	私大理系
～ 2	3( 7.3)	3( 7.1)	2( 4.3)	5( 9.6)	13( 7.1)	19.0%
2～ 4	13(31.7)	14(33.3)	4( 8.5)	11(21.1)	42(23.1)	30.2
4～ 6	11(26.8)	10(23.8)	16(34.0)	18(34.6)	55(30.3)	26.2
6～ 8	1( 2.4)	0	0	0	1( 0.5)	2.6
8～10	0	1( 2.4)	3( 6.4)	0	4( 2.2)	1.9
10～12	7(17.0)	9(21.4)	10(21.2)	12(23.0)	38(20.9)	13.7
12～14	0	0	0	0	0	0.4
14～16	0	2( 4.7)	3( 6.4)	1( 1.9)	6( 3.3)	1.9
20～22	2( 4.8)	1( 2.4)	3( 6.4)	1( 1.9)	7( 3.8)	3.1
24～	0	0	2( 4.3)	2( 3.8)	4( 2.2)	—
NA	4( 9.8)	2( 4.7)	4( 6.4)	2( 3.8)	12( 6.6)	—

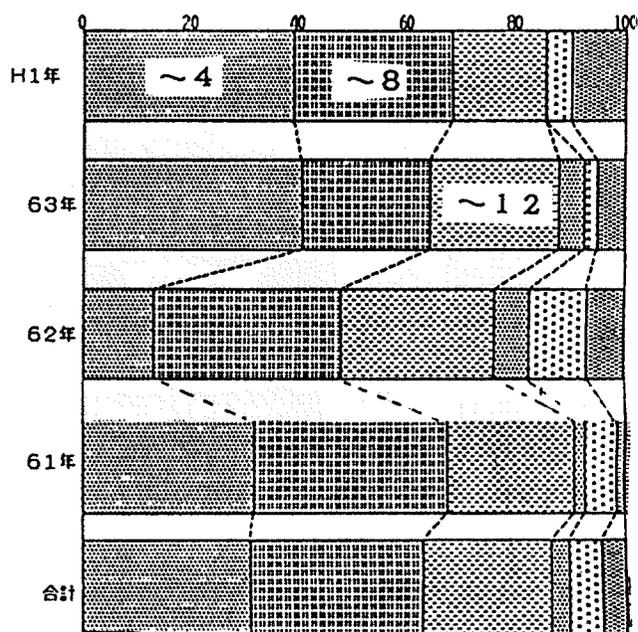


図16. 1か月平均の勉学費

5. 1 か月平均の通学のための交通費(3・4年生のみ)

最も多いのが4～8千円で、次いで2～4千円である。16%の学生が不要である。大学の比較的近くに住んでいるといえよう。

表16. 通学のための交通費 (単位：千円)

金額	62年度生	61年度生	合計
不要	5 (10.6)	11 (21.1)	16(16.2)
1～4未満	13 (25.5)	8 (15.4)	20(20.4)
4～8未満	19 (40.4)	20 (38.4)	39(39.5)
8～12未満	7 (14.9)	3 ( 5.7)	10(10.1)
12～16未満	1 ( 2.1)	6 (11.5)	7( 7.0)
16～20未満	1 ( 2.1)	0	1( 1.0)
20～30未満	0	1 ( 1.9)	1( 1.0)
30以上	0	2 ( 3.8)	2( 2.0)
NA	2 ( 4.2)	1 ( 1.9)	3( 3.0)

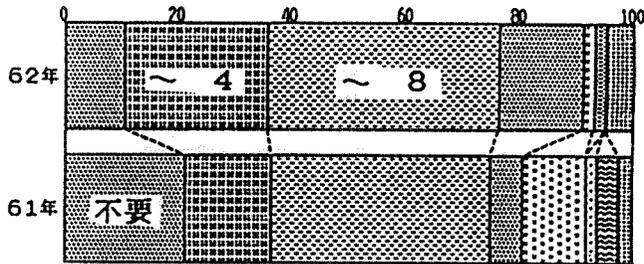


図17. 1 か月平均の通学のための交通費

6. 家族等からの1 か月平均の援助金額

在寮中の場合の平均は4～6万円、通学生の平均は10～14万円であり、1 か月平均の総支出のほぼ全額を家族からの援助で行なっているものが多い。

表17. 家族等からの1か月平均の援助金額

(%)

金額 (千円)	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
0	2( 4.9)	1( 2.3)	3( 6.4)	0	6( 3.3)
1 ~ 20	0	2( 4.7)	3( 6.4)	4( 7.6)	9( 4.3)
20 ~ 40	7(17.0)	9(20.9)	5(10.6)	7(13.5)	28(15.3)
40 ~ 60	19(46.3)	19(44.1)	3( 6.4)	4( 7.6)	45(24.7)
60 ~ 80	7(17.0)	9(20.9)	3( 6.4)	3( 5.8)	22(12.0)
80 ~ 100	1( 2.4)	0	4( 8.5)	3( 5.8)	8( 4.4)
100 ~ 120	0	2( 4.7)	8(17.0)	12(23.0)	22(12.0)
120 ~ 140	0	0	8(17.0)	8(15.4)	16( 8.7)
140 ~ 160	1( 2.4)	0	5(10.6)	7(13.5)	13( 7.1)
160 ~ 180	0	0	1( 2.1)	2( 3.8)	3( 1.6)
200 ~	0	0	2( 4.3)	1( 1.9)	3( 1.6)
NA	4( 9.8)	1( 2.3)	2( 4.3)	1( 1.9)	8( 4.4)

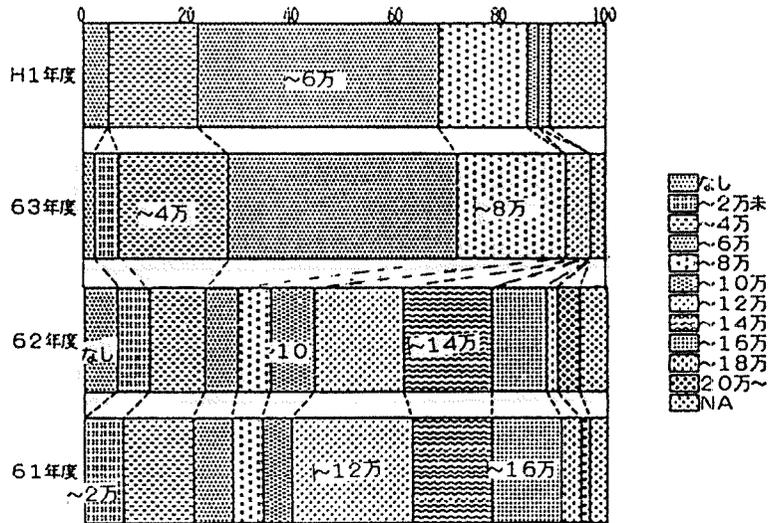


図 18. 1 か月平均の家族からの援助金額

## 7. 奨 学 金

日赤支部社費と日赤医療センター貸費を受けているのは3年生以下約6割である。4年生は59名中48名(80%)が日赤の社費または貸費生である。

日本育英会の奨学生がわずかであるが増加傾向にある。

表18. 奨学金の種類

(%)

奨学金	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
日赤医療センター貸費	15(26.8)	16(30.2)	15(25.5)	15(28.8)	59(25.2)
日赤支部社費	13(31.7)	12(27.9)	16(34.0)	29(55.8)	90(38.5)
日本育英会	3(7.3)	4(9.3)	2(4.3)	1(1.9)	20(8.5)
その他	0	0	1(2.1)	2(3.8)	3(1.3)
受けていない	14(34.1)	14(32.6)	14(29.8)	5(9.6)	62(26.5)

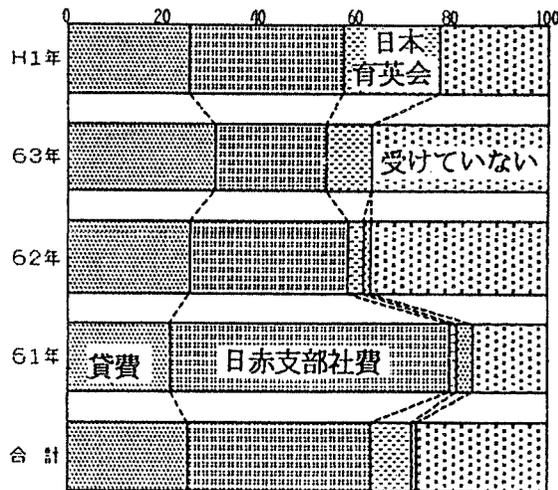


図19. 奨学金の種類

8. ローン・クレジット等の利用状況

全学生を平均してみると約35%の学生は利用したことがある。しかもトラブルにあったことのある学生も僅かながら存在する。

表19. ローン・クレジット等の利用状況

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
利用したことがない	26(63.4)	27(62.8)	27(57.8)	35(67.3)	115(62.8)
トラブルある	0(0)	1(2.3)	0(0)	1(1.9)	2(1.1)
トラブルない	15(36.6)	14(32.6)	20(42.6)	15(28.8)	64(35.0)
NA		1(2.3)		1(1.9)	2(1.1)

## Ⅳ. アルバイトについて

### 1. アルバイトの実施状況（頻度・回数・時間）

アルバイトは原則として1年生の前期は禁止されているが、1年生でも年度末には8割強の学生がアルバイトをしており、各学年ともほとんどの学生が経常的に行なっている。

アルバイトの回数は月平均9～12日で、週に約2日、1日平均4～5時間のものが多い。全国私大調査と比較すると1日当りの時間は短い、在校時間が2～3時間長い（調査Ⅵ参照）ことを見ると、本学の学生は学業とアルバイトが生活時間の大半を占めているといえよう。

また1・2年生のアルバイト時間は比較的短い。これは寮の門限が影響していると思われる。

表20. アルバイトの実施状況

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年	合計
全くしていない	0	0	1(2.1)	3(5.8)	4(2.2)
長期休暇中	0	7(16.3)	1(2.1)	16(30.8)	24(13.1)
臨時的に	5(12.2)	18(41.9)	11(23.4)	11(21.2)	45(24.6)
経常的に	28(68.3)	15(34.9)	16(34.0)	21(40.4)	80(43.7)
長期と授業中も	8(19.5)	3(7.0)	18(38.3)	1(1.9)	30(16.4)

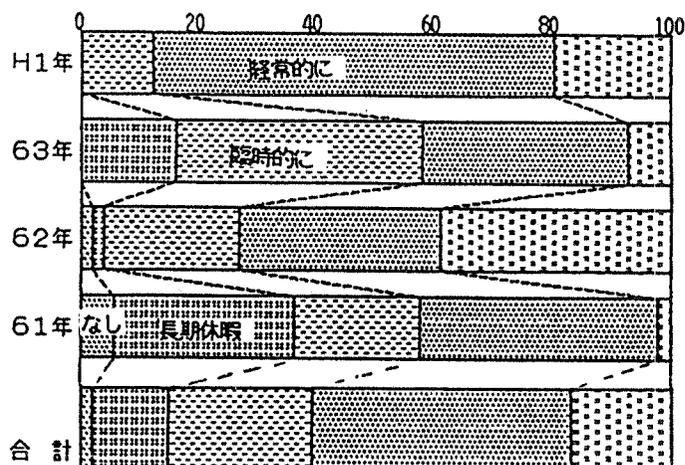


図20. アルバイトの実施状況

表21. アルバイトの1か月平均の日数 (%)

日数	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
1～4	3(7.3)	2(5.1)	7(14.9)	11(21.2)	23(12.8)
5～8	14(34.1)	11(28.2)	16(34.0)	10(19.2)	51(28.5)
9～12	18(43.9)	19(48.7)	14(29.8)	14(26.9)	64(36.3)
13～16	4(9.8)	6(15.3)	6(12.8)	10(19.2)	26(14.5)
17～20	1(2.4)	1(2.6)	0	3(5.8)	5(2.8)
不明	1(2.4)	0	4(8.5)	4(7.8)	9(5.0)

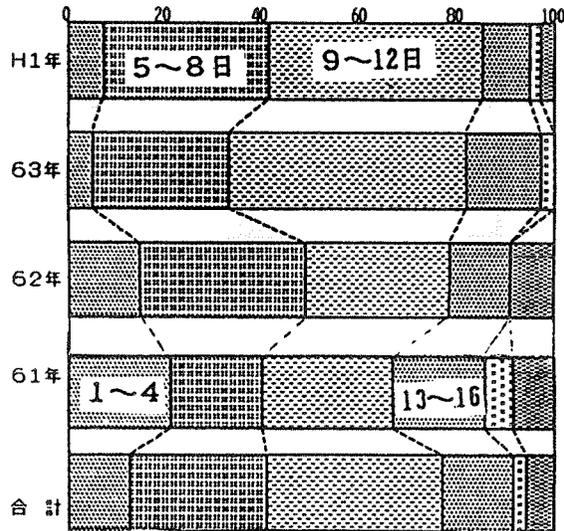


図21. アルバイトの1か月平均の日数

表22. アルバイト 1日平均の時間

時間数 (h)	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
1～2	0	0	1(2.1)	1(1.9)	2(1.1)
2～3	7(17.1)	1(2.4)	4(8.5)	3(5.8)	15(8.3)
3～4	7(17.1)	7(17.1)	7(14.9)	8(15.4)	29(16.0)
4～5	21(51.2)	24(58.5)	15(31.9)	19(36.5)	79(43.6)
5～8	4(9.8)	6(14.6)	14(29.8)	13(25.0)	37(20.4)
8～12	1(2.4)	1(2.4)	2(4.3)	3(5.8)	7(3.9)
12～24	1(2.4)	1(2.4)	1(2.1)	1(1.9)	4(2.2)
不明	0	1(2.4)	3(6.4)	4(7.8)	10(5.5)

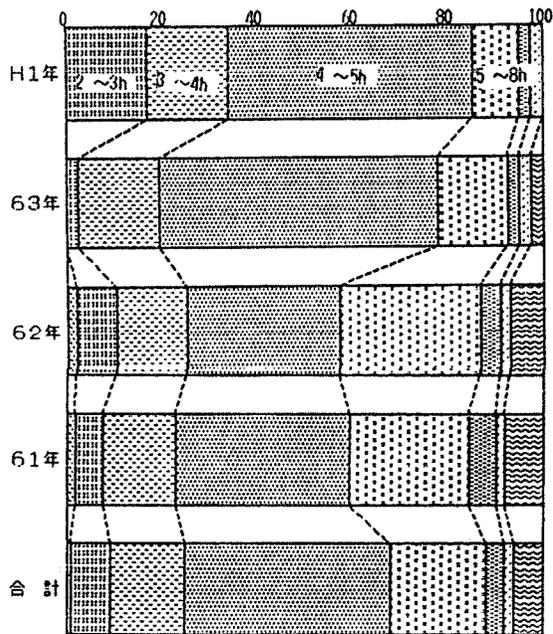


図22. アルバイトの1日平均の時間

## 2. アルバイトの主な目的

第1位は旅行・レジャー費で、次いで生活費の順である。全国私大調査の第1位も同様に旅行・レジャー費であるが、次はクラブ活動費である。本学学生のクラブ活動への参加の少なさがうかがえる。

表23. アルバイトの目的

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
学費および勉学費	0	0	2( 4.3)	1( 1.9)	2( 1.7)
生活費	13(31.7)	7(16.3)	12(25.2)	11(21.2)	43(24.0)
クラブ活動費	3( 7.3)	2( 4.7)	3( 6.4)	1( 1.9)	9( 5.0)
旅行・レジャー費	14(34.1)	23(53.5)	22(46.8)	32(61.5)	91(50.8)
高額商品の購入	3( 7.3)	2( 4.7)	4( 8.5)	3( 5.8)	12( 6.7)
その他	8(19.4)	6(14.0)	3( 6.4)	4( 7.7)	21(11.7)

IV. アルバイトについて

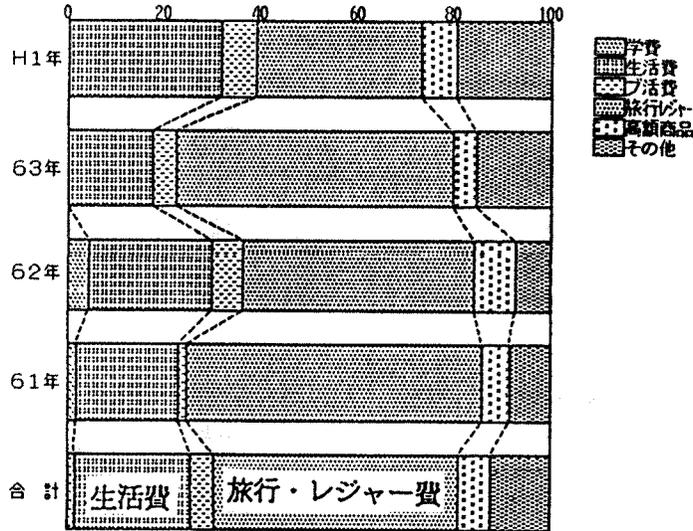


図23. アルバイトの目的

3. アルバイトの職種と賃金

職種で多いのは、時間給 700~800円のウェイトレスや店員といったサービス業が全体の約7割を占めている。

私大調査では時間給のよい家庭教師が第2位を占めているが、本学では4位である。

表24. アルバイト職種 (2種類) (%)

職 種	H 1 年度	6 3 年度	6 2 年度	6 1 年度	合 計
家庭教師	3( 4.6)	1( 1.9)	5( 7.4)	7( 8.8)	16( 6.0)
事務 (宛名書き・校正)	6( 9.2)	4( 7.4)	9(14.3)	9(11.3)	28(10.5)
軽労働 (封入・発送)	4( 6.2)	2( 3.7)	0	3( 3.8)	9( 3.4)
労働 (運搬・看護助手)	0	2( 3.7)	4( 6.3)	5( 6.3)	11( 4.1)
サービス(アルバイト 接待)	29(44.6)	38(70.4)	33(52.4)	39(48.8)	139(52.1)
販売店員	13(20.0)	4( 7.4)	14(22.2)	15(18.8)	46(17.2)
特技 (タイフ・ワカ等)	7(10.8)	0	0	1( 1.3)	8( 3.0)
その他	3( 4.6)	3( 5.6)	3( 4.8)	1( 1.3)	10( 3.7)

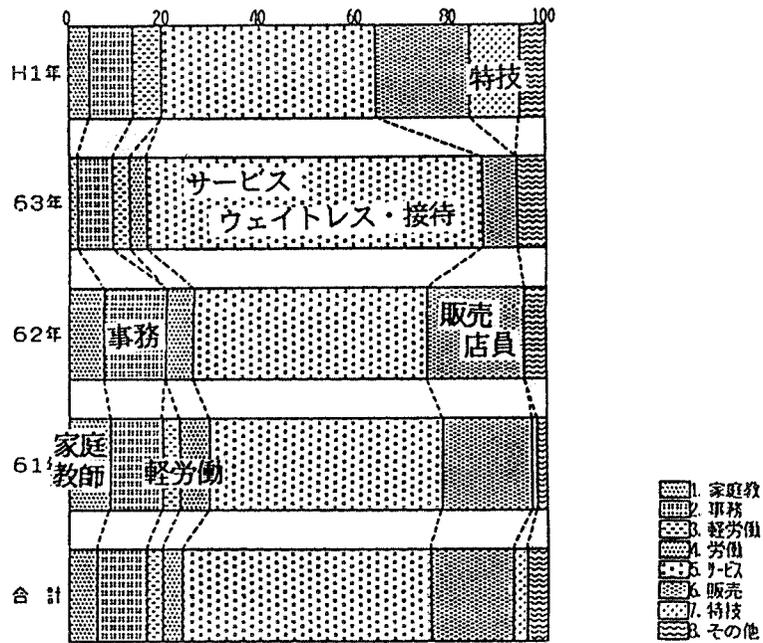


図24. アルバイトの職種

表25. アルバイトの1時間当りの賃金

(%)

金額 (円)	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
500未満	0	2( 4.8)	1( 2.1)	1( 1.9)	4( 2.2)
500～ 600	1( 2.4)	2( 4.8)	0	5( 9.6)	8( 4.4)
600～ 700	0	2( 4.8)	2( 4.7)	11(21.2)	15( 8.3)
700～ 800	16(39.0)	5(12.2)	13(30.2)	12(23.1)	46(25.4)
800～ 900	11(26.8)	16(39.0)	6(13.9)	4( 7.7)	37(20.4)
900～1000	3( 7.3)	4( 9.8)	4( 9.3)	5( 9.6)	16( 8.8)
1000～1500	9(21.9)	6(14.6)	10(23.2)	5( 9.6)	30(16.6)
1500～3000	1( 2.4)	0	7(16.3)	4( 7.7)	12( 6.6)
3000～5000	0	3( 7.3)	0	1( 1.8)	4( 2.2)
5000～	0	1( 2.4)	1( 2.1)	0	2( 1.1)
不明		2( 4.8)	5( 6.3)	4( 7.7)	9( 4.9)

IV. アルバイトについて

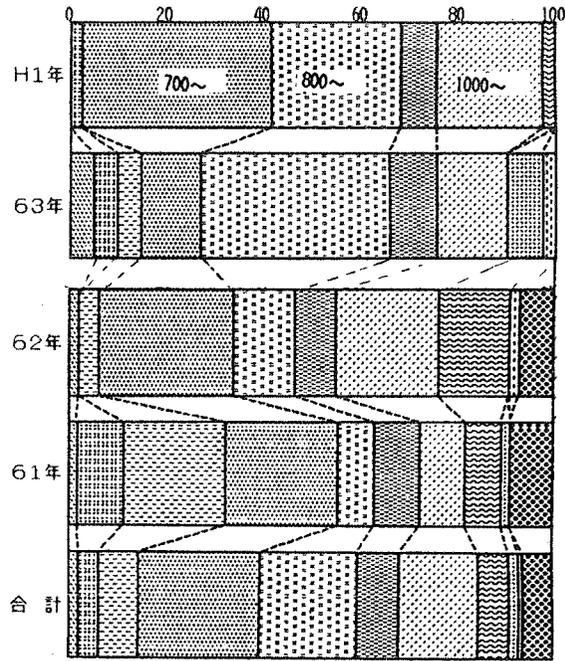


図25. アルバイトの1時間当りの賃金

## V. 健康状態について

### 1. 日頃の健康状態

全体を見ると、「好調だが1年に1～2回位風邪をひく程度」が約半数である。

「常に疲労感や不調を感じている」が、学年が上がるにつれて多くなり、4年生では半数以上を占めている。

表26. 健康状態

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
いつも好調	5(12.2)	3(7.0)	5(10.6)	1(1.9)	19(7.7)
たまに風邪	28(68.3)	23(53.5)	22(46.8)	17(32.7)	90(49.5)
常に不調	5(12.2)	14(32.6)	15(31.9)	28(53.8)	62(34.1)
病欠しがち	0	3(7.0)	1(2.1)	5(9.6)	9(4.9)
治療中	2(4.9)	0	4(8.5)	1(1.9)	7(3.8)

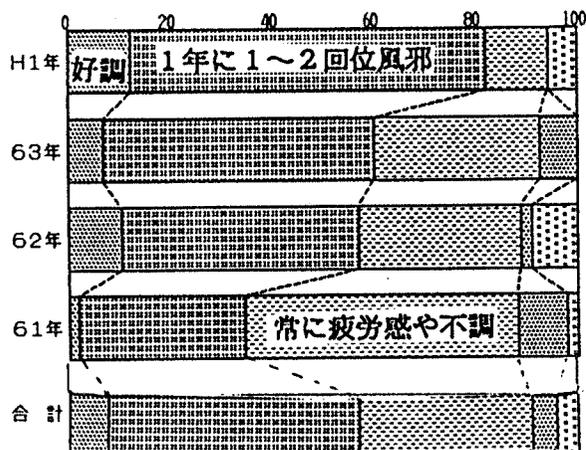


図26. 健康状態

## 2. 治療している病気

次のものが挙げられているが、入院治療を要する程ではない。

膀胱炎, アレルギー, う歯, 神経性胃炎,

整形外科疾患 (先天的変形による足の痛み)

結核の既往のための定期検診, 声帯溝症の手術後の経過観察

## 3. 寮生活から通学になったことによる健康上の変化

寮生活より通学の方が「健康的である」と答えているものが通学生の4割を占め、変わらないのが約2割である。寮生活による規制からの解放が健康的と感じられるのであろうか。

表27. 寮生活から通学になったことによる健康上の変化

項目	62年度	61年度	合計
変らない	13(27.7)	22(42.3)	35(35.4)
健康になった	16(34.0)	14(46.2)	40(40.4)
疲労が持続する	18(38.3)	5( 9.6)	23(23.2)
不健康になった	0	1( 1.9)	1( 1.0)

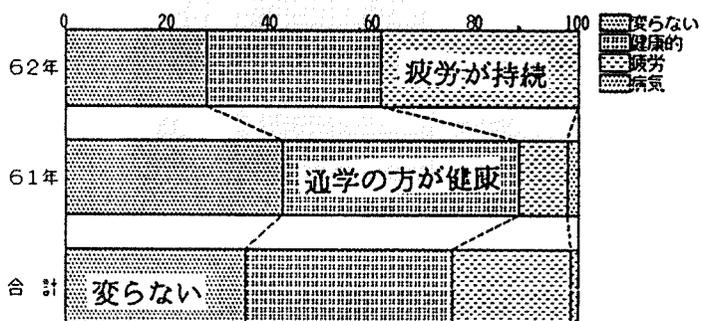


図27. 寮生活から通学になったことによる健康上の変化

## 4. ポジティブヘルス

健康の維持増進を学問的に学んでいる学生として、食事・栄養、睡眠に最も気をつけているのが全体の約4割である。

運動やスポーツを挙げたものは16%にすぎず、積極的な健康づくりはされていないといえる。

表28. 健康のために気をつけたり, 実行していること

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
食事・栄養	15(36.6)	21(48.8)	19(40.4)	23(44.2)	78(42.6)
睡眠	16(39.0)	12(27.9)	13(27.7)	19(36.5)	60(32.8)
運動スポーツ	1( 2.4)	1( 2.3)	2( 4.3)	3( 5.8)	7( 3.8)
アルコール	0	0	0	0	0
タバコ	0	0	0	0	0
薬	1( 2.4)	1( 2.3)	3( 6.4)	2( 3.8)	7( 3.8)
その他	7(17.1)	1( 2.3)	9(19.1)	0	17( 9.3)
何もしない	1( 2.4)	7(16.3)	1( 2.1)	5( 9.6)	14( 7.7)

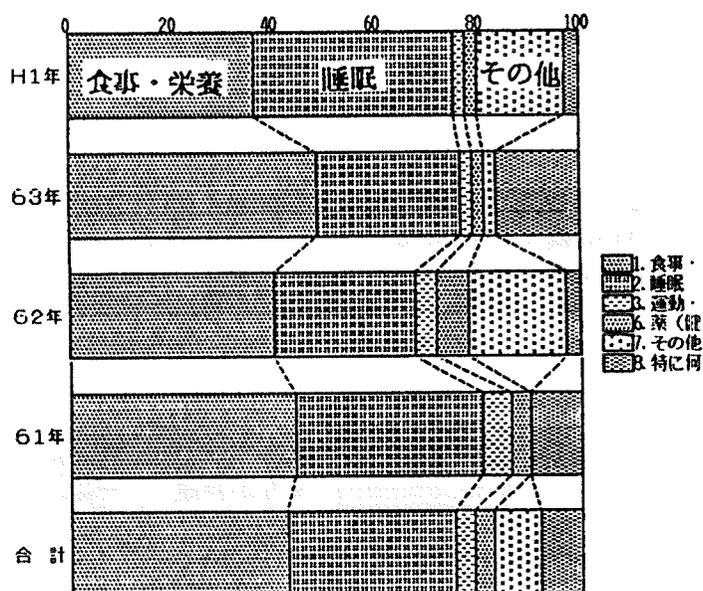


図28. 健康のために気をつけたり, 実行していること

## 5. 精神の健康について

入学以来の深刻な不安や悩みは、約半数以上の学生がもつ。特に2年生は約7割で最も多い。その内容は「自分の性格や能力」「学業」「就職や将来の進路」の順である。

全国私大調査と比較すると、「自分の性格や能力」「友人等との対人関係」が高く、「就職や将来の進路」は少ない。寮生活による対人関係が大きく影響しているのであろう。また、「自分の性格や能力」は、看護に対する適性が問われる実習等の機会が多いためと考えられる。今後、入学後の学生の自尊感情の変化と自尊感情の回復に役立ったことを調べる必要がある。

表29. 深刻な不安や悩みの有無

	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
ある	23(56.1)	30(69.8)	21(44.7)	27(51.9)	101(55.2)
ない	18(43.9)	13(30.2)	23(48.9)	25(48.1)	79(43.2)
NA	0	0	3(6.4)	0	3(1.6)

表30. 深刻な不安や悩みの種類 (2項目)

(%)

悩みの種類	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
学業	13(16.9)	13(15.7)	12(14.6)	10(10.5)	48(19.2)
健康	2(2.6)	3(3.6)	4(4.9)	4(4.2)	13(3.9)
自分の性格や能力	22(28.6)	22(26.5)	16(19.5)	23(24.2)	83(24.6)
人生観	7(9.1)	5(6.0)	9(11.0)	7(7.4)	28(8.3)
就職や将来の進路	13(16.9)	10(12.0)	11(13.4)	20(21.1)	54(16.0)
友人等との対人関係	13(16.9)	14(16.9)	4(4.9)	14(14.7)	45(13.4)
異性や性の問題	3(3.9)	11(13.3)	7(8.5)	3(3.2)	24(7.1)
経済問題	2(2.6)	1(1.2)	3(3.7)	2(2.1)	8(2.4)
家族や家庭内のこと	2(2.6)	1(1.2)	5(6.1)	8(8.4)	16(4.7)
その他	0	3(3.6)	11(13.9)	4(4.2)	18(5.3)

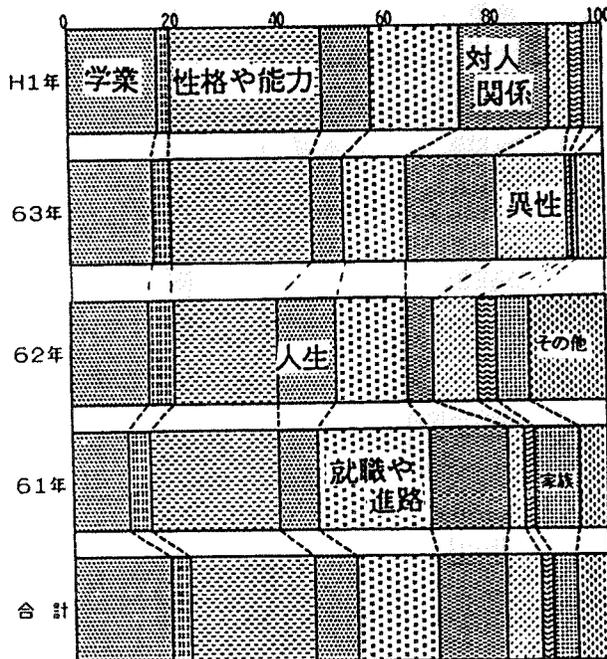


図29. 不安や悩みの種類

## 7. 不安や悩みの解決方法

「自分自身で努力」「友人に相談」「なりゆきにまかせた」が多い。

全国私大調査に比較すると解決方法の上位の順は同様の傾向であるが、「先輩に相談」が本学は少ない。反対に「大学の教員（アドバイザー・学生課を含む）」が高く、教職員が先輩の代わりに果たしているといえる。クラブ・サークル活動の少なさが先輩後輩関係を築きにくくしているのであろう。

表31. 悩みの解決法（2項目）

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計	全私大
自分自身の努力	22(28.6)	29(35.8)	20(27.8)	32(35.2)	103(32.1)	26.5%
家族に相談	9(11.7)	5(6.2)	8(11.1)	5(5.5)	27(8.4)	5.1
先輩に相談	3(3.9)	1(1.2)	1(1.4)	1(1.2)	6(1.9)	3.0
大学教員アドバイザー	4(5.2)	2(2.5)	4(5.6)	5(5.5)	15(4.7)	0.5
友人に相談	21(27.3)	28(34.6)	24(33.3)	29(11.9)	102(31.8)	15.0
カウンセラー	0	2(2.5)	0	0	2(0.6)	0.3
なりゆき	16(20.8)	12(14.8)	10(13.4)	19(20.9)	57(17.8)	12.5
その他	2(2.6)	2(2.5)	5(6.9)	0	9(2.8)	2.5

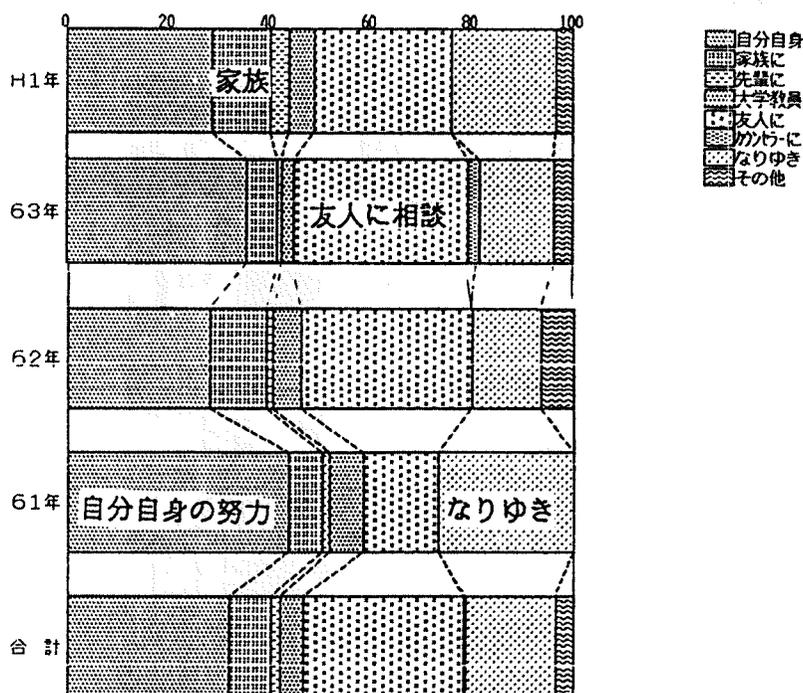


図30. 不安や悩みの解決方法

## VI. 生活時間について

## 1. 大学およびその周辺で過ごす時間

大学およびその周辺で過ごす時間には、講義・演習（臨床実習含む）・研究など、正課の授業と、正課以外の学習時間、学内クラブ・サークル活動時間を調査した。

大学の講義・演習・研究など授業で拘束される時間は6～7時間であるものが全体の約4割で、7時間以上のものと合せると約7割になる。全国私大調査の平均の3～4時間に対して、本学は医学系学生とほぼ同様である。

学内のクラブ・サークル活動に30分以上参加する学生は全体でも15%に過ぎない。

登校から下校までの在校時間は、6～9時間が全体で約6割である。全国私大調査の平均は6時間、医学系で8時間であることに比較すると、本学学生は正課以外の学習時間が長いといえよう。

表32. 授業時間( 講義・演習・研究など) (%)

時間 (h)	H 1 年度	6 3 年度	6 2 年度	6 1 年度	合 計
3～4	0	1( 2.4)	11(23.4)	5( 9.6)	17( 9.3)
4～5	2( 4.9)	5(11.9)	5(10.6)	6(12.5)	18( 9.9)
5～6	1( 2.4)	1( 2.4)	6(12.8)	5( 9.6)	13( 7.1)
6～7	18(43.9)	21(50.0)	15(31.9)	19(36.5)	73(40.1)
7～8	14(34.1)	6(14.3)	5(10.6)	8(15.4)	33(18.1)
8～	6(14.6)	7(16.7)	4( 8.5)	2( 3.8)	19(10.4)
NA	0	2( 2.4)	1( 2.1)	7(14.6)	9( 4.9)

表33. 正課外の学習時間( 予習・復習・自主的研究など) (%)

時間(h)	H 1 年度	6 3 年度	6 2 年度	6 1 年度	合 計
0～1	10(24.4)	10(23.3)	7(14.9)	19(30.8)	43(23.5)
1～2	14(34.1)	20(46.5)	20(42.6)	25(48.0)	79(43.2)
2～3	12(29.3)	8(18.6)	12(25.5)	5( 9.6)	37(20.2)
3～4	3( 7.3)	1( 2.4)	5(10.6)	1( 1.9)	10( 5.5)
4～5	0	0	0	1( 1.9)	1( 0.5)
5～6	0	0	0	0	0
6～	0	1( 2.4)	0	0	1( 0.5)
NA		3( 7.0)	3( 6.5)	4( 7.7)	12( 6.6)

表34. 学内のクラブ・サークル活動など

(%)

時間 (h)	H 1年度	6 3年度	6 2年度	6 1年度	合 計
0～ 0.5	21(51.2)	24(55.8)	32(68.1)	39(75.0)	113(63.4)
0.5 ～1	6(14.6)	7(16.3)	2( 4.3)	1( 1.9)	16( 8.7)
1～2	3( 7.3)	2( 4.6)	2( 4.3)	4( 7.7)	11( 6.0)
2～3	3( 7.3)	2( 4.6)	0	3( 5.8)	8( 4.4)
3～4	1( 2.4)	0	1( 2.1)	0	2( 1.1)
4～5	2( 4.9)	0	0	0	2( 1.1)
5～	0	1( 2.4)	1( 2.1)	0	2( 1.1)
NA	5(12.2)	7(16.3)	9(19.6)	5( 9.6)	26(14.2)

表35. 在校時間（登校から下校までの時間）

(%)

時間(h)	H 1年度	6 3年度	6 2年度	6 1年度	合 計
0～1	5(12.2)	11(26.2)	11( 6.5)	0	19(10.4)
1～2	0	0	0	1( 1.9)	1( 0.5)
3～4	0	0	1( 2.1)	1( 1.9)	2( 1.1)
4～5	1( 2.4)	0	5(10.6)	3( 5.8)	9( 4.9)
5～6	0	1( 2.4)	3( 5.8)	2( 3.8)	6( 3.3)
6～7	12(29.3)	15(34.9)	9(19.6)	14(26.9)	50(27.3)
7～8	14(34.1)	5(11.9)	3( 5.8)	14(26.9)	36(19.7)
8～9	6(14.6)	4( 9.0)	8(17.0)	7(14.6)	36(13.7)
9～10	1( 2.4)	0	6(12.8)	2( 3.8)	9( 4.9)
10～11	0	1( 2.4)	5(10.6)	1( 1.9)	7( 3.8)
11～12	0	0	2( 4.3)	1( 1.9)	3( 1.6)
NA	2( 4.9)	6(14.0)	0	6(12.5)	16( 8.7)

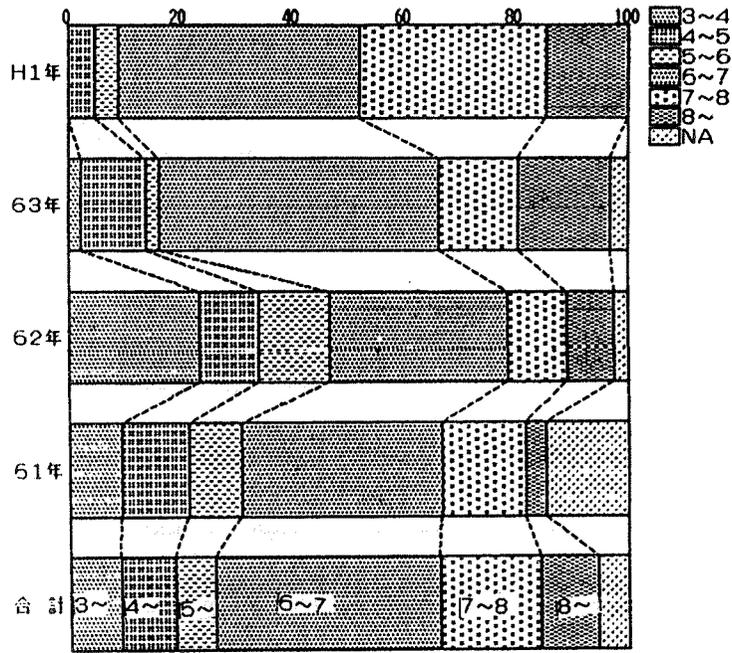


図31. 授業時間（講義・演習・研究・実習など）

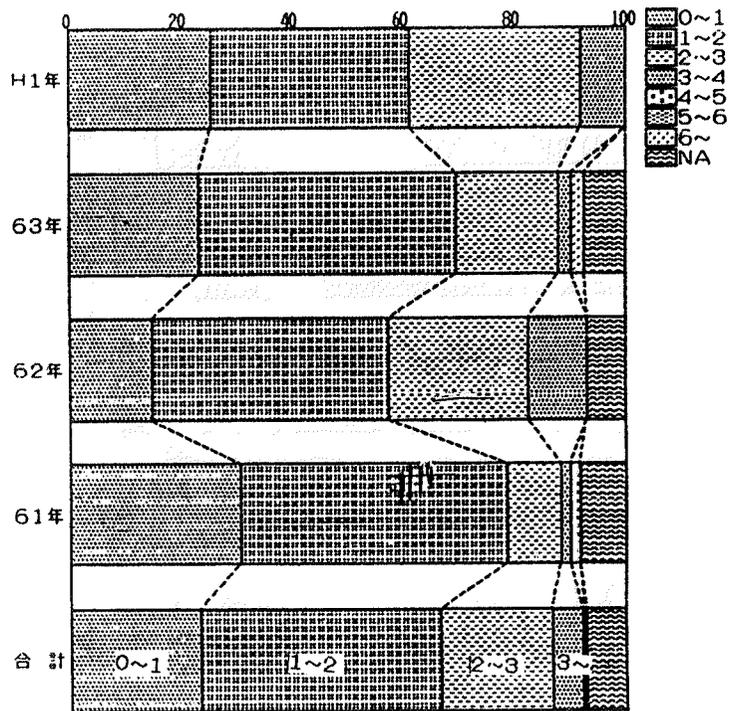


図32. 正課以外の学習時間（予習・復習・自主的研究）

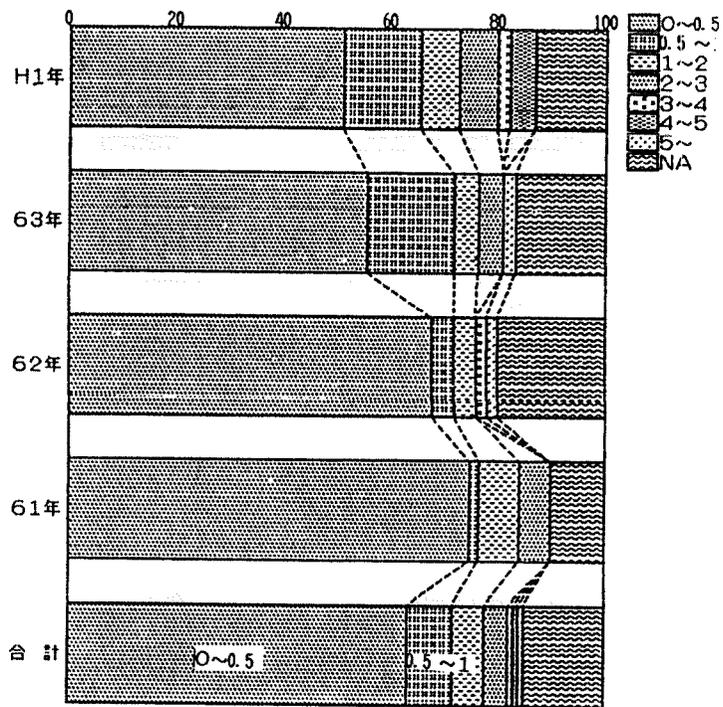


図33. 学内クラブ・サークル活動など

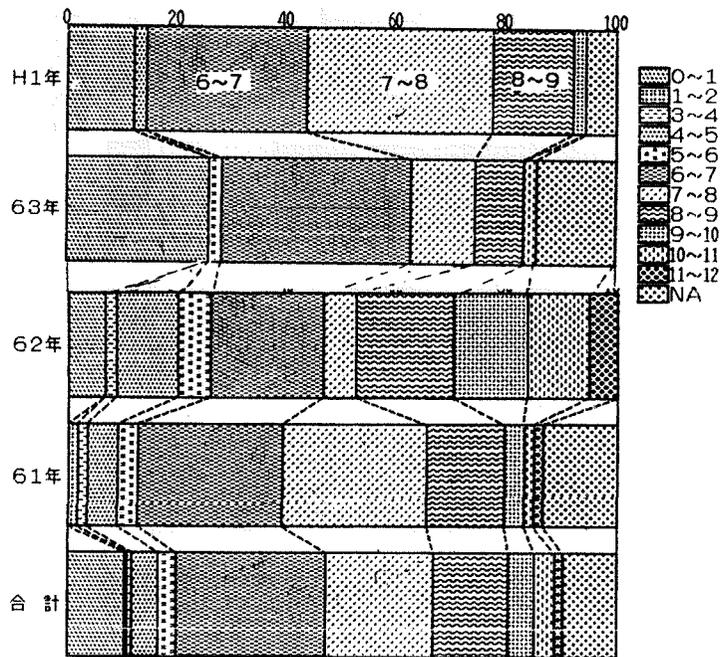


図34. 在校時間（登校から下校までの時間）

## 2. 自宅・アパート・下宿・寮などで過ごす時間

プライベートな生活に占める、睡眠・学習・自由時間について調査した。

生活の中で最も基本となる睡眠時間は、平均して6～8時間とっている。学習時間は1～2時間であり、その他の自由な時間は2～4時間が平均的である。

表36. 睡眠時間 (%)

時間	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
～5h	0	0	0	0	0
5～6	2(4.9)	4(9.3)	5(10.6)	2(2.8)	13(9.1)
6～7	21(51.2)	15(34.9)	22(46.8)	10(19.2)	68(39.2)
7～8	11(26.8)	11(25.6)	17(36.2)	16(30.8)	55(30.1)
8～9	7(17.1)	11(25.6)	2(4.3)	15(28.8)	35(19.1)
9～	0	2(4.6)	0	7(14.6)	9(4.9)
NA	0	0	1(2.1)	2(3.8)	3(1.6)

表37. 学習時間 (%)

時間 (h)	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
～0.5	2(4.9)	5(11.9)	4(8.5)	7(14.6)	18(9.9)
0.5～1	2(4.9)	1(2.4)	0	2(3.8)	5(2.7)
1～2	20(48.8)	18(42.9)	19(40.4)	20(38.4)	77(42.3)
2～3	14(34.1)	13(31.0)	17(36.2)	13(25.0)	57(11.3)
3～4	3(7.3)	2(4.8)	4(8.5)	3(5.8)	12(6.6)
4～5	0	0	1(2.1)	2(3.8)	3(1.6)
5～	0	0	0	1(1.9)	1(0.5)
NA	0	3(7.1)	2(4.3)	4(7.7)	9(5.0)

表38. 自由時間 (%)

時間	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
0～1h	0	0	1(2.1)	0	1(0.5)
1～2	1(2.4)	0	4(8.5)	0	5(2.7)
2～3	8(19.5)	2(4.6)	18(38.3)	9(17.3)	37(20.2)
3～4	13(31.9)	13(31.2)	10(21.3)	8(10.4)	44(24.0)
4～5	5(12.2)	10(23.3)	5(10.6)	6(12.5)	26(14.2)
5～6	7(17.1)	6(14.0)	1(2.1)	7(14.6)	21(11.5)
6～7	3(7.3)	4(9.0)	2(4.3)	5(9.6)	14(7.7)
7～	3(7.3)	6(14.0)	2(4.3)	7(14.6)	18(9.8)
NA	1(2.4)	2(4.6)	4(8.5)	10(19.2)	17(9.3)

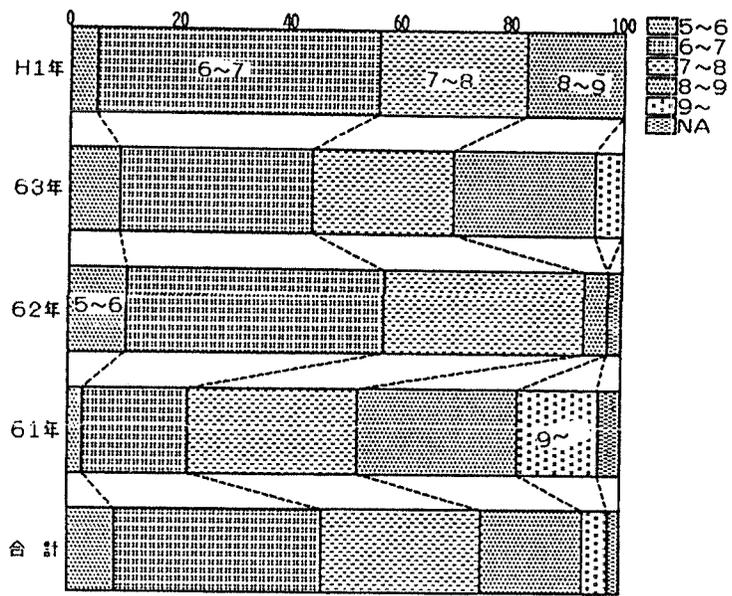


図35. 睡眠時間

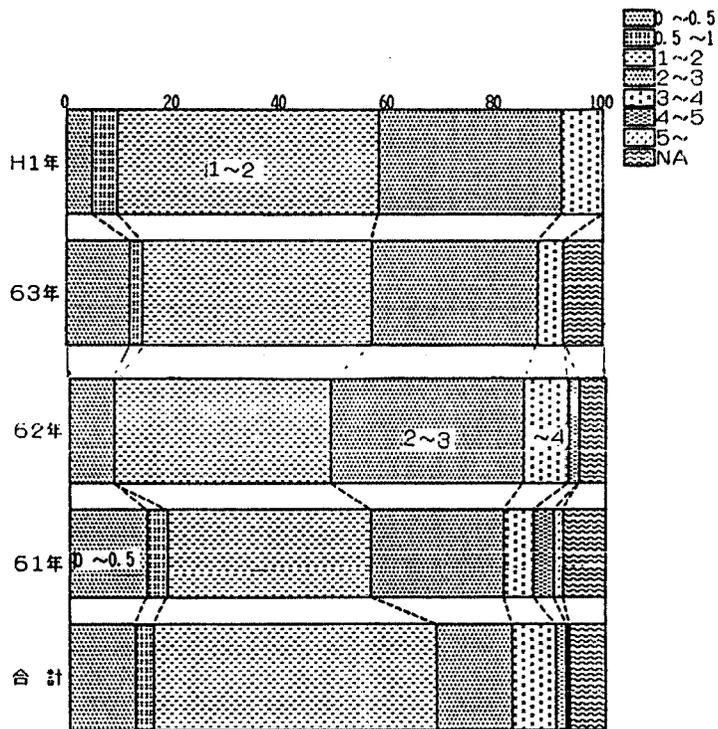


図36. 学習時間

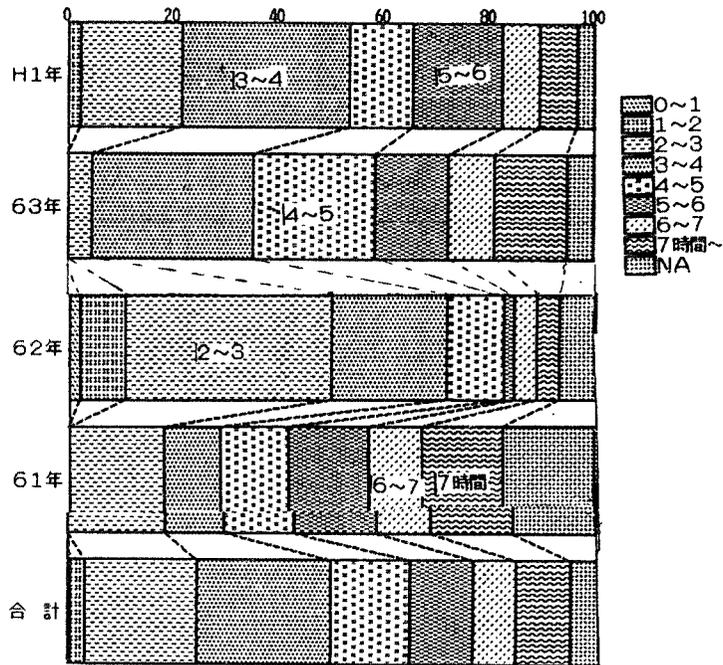


図37. 自由時間

### 3. その他の場所で過ごす時間

大学・自宅以外の場所で費やす時間として、通学、クラブ・サークル、アルバイト、および全く自由な時間を調査した。

通学時間は、1・2年生は隣接する学生寮に住んでいるため、ほとんど必要としない。

3・4年生の8割は往復30分から2時間半未満であるが、2割の者が3～4時間以上を要している。これは首都圏の住宅事情を反映していると考えられる。

クラブ・サークル活動は、全学年を通して大半が30分未満であるが、1・2年生の3割は1～4時間を使っている。

アルバイトの時間は、1・2年生は4～5時間が最も多く、3年生の2割と4年生の半数はアルバイトをしていない。

その他の友人との交際などの全く自由な時間は、平均して大半が1～3時間であり2年生は3～5時間と多くを占めている。

表39. 通学時間 (往復)

(%)

時間 (h)	H 1年度	6 3年度	6 2年度	6 1年度	合計
～0.5	41(100)	43(100)	1( 2.1)	2( 3.8)	87(47.5)
0.5 ～1	0	0	6(12.8)	9(19.3)	15( 8.2)
1 ～1.5	0	0	9(19.1)	9(17.3)	18( 9.8)
1.5 ～2	0	0	7(14.9)	5( 9.6)	12( 6.6)
2 ～2.5	0	0	15(31.9)	14(26.9)	29(15.9)
2.5 ～3	0	0	0	1( 1.9)	1( 0.5)
3 ～3.5	0	0	5(10.6)	5( 9.6)	10( 5.5)
3.5 ～4	0	0	1( 2.1)	0	1( 0.5)
4 ～	0	0	2( 4.3)	5( 9.6)	7( 3.8)
NA	0	0	1( 2.1)	2( 3.8)	3( 1.6)

表40. サークル活動時間

(%)

時間 (h)	H 1年度	6 3年度	6 2年度	6 1年度	合計
～0.5	19(46.3)	19(44.2)	27(58.7)	36(69.2)	101(55.5)
0.5 ～1	0	1( 2.3)	0	0	1( 0.5)
1 ～1.5	1( 2.4)	3( 7.0)	3( 6.5)	5( 9.6)	12( 6.6)
1.5 ～2	2( 4.8)	1( 2.3)	0	0	3( 1.6)
2 ～2.5	3( 7.3)	5(11.6)	2( 4.3)	3( 5.8)	13( 7.2)
2.5 ～3	0	0	0	0	0
3 ～3.5	3( 7.3)	3( 7.0)	2( 4.3)	2( 3.8)	10( 5.5)
3.5 ～4	1( 2.4)	0	0	0	1( 0.5)
4 ～	4( 9.8)	5(11.6)	3( 6.5)	1( 1.9)	13( 7.2)
NA	8(19.5)	6(14.0)	9(19.6)	5( 9.6)	28(15.4)

表41. アルバイト時間

(%)

時間 (h)	H 1年度	6 3年度	6 2年度	6 1年度	合計
0~1	0	9(20.9)	11(23.4)	26(56.2)	46(25.1)
1~2	2( 4.9)	0	0	0	2( 1.1)
2~3	5(12.2)	0	4( 8.5)	3( 5.8)	12( 6.6)
3~4	5(12.2)	9(20.9)	6(12.8)	4( 7.6)	24(13.1)
4~5	20(48.8)	16(37.2)	11(23.4)	7(13.5)	54(29.5)
5~6	6(14.6)	7(16.3)	5(10.6)	4( 7.6)	22(12.0)
6~7	0	0	2( 4.3)	1( 1.9)	3( 1.6)
7~8	0	0	0	0	0
8~	0	2( 4.6)	0	1( 1.9)	3( 1.6)
NA	3( 7.3)	0	8(17.0)	6(11.5)	17( 9.3)

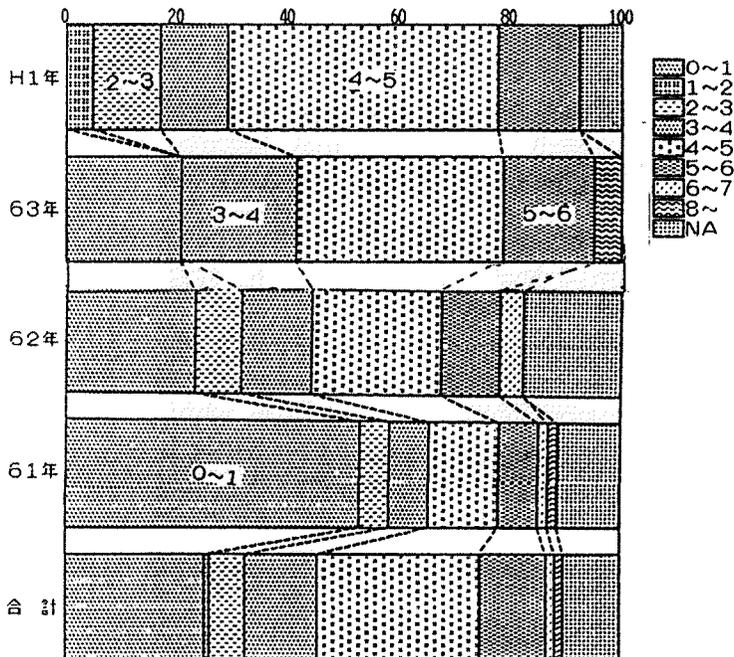


図38. アルバイト

表42. その他の自由時間

(%)

時間 (h)	H 1年度	6 3年度	6 2年度	6 1年度	合計
～1	5(12.2)	9(20.9)	4( 8.5)	4( 7.7)	22(12.0)
1～2	4( 9.8)	4( 9.3)	14(29.8)	13(25.0)	35(19.1)
2～3	10(24.4)	4( 9.3)	14(29.8)	9(17.3)	37(20.2)
3～4	6(14.6)	8(18.6)	3( 6.4)	5( 9.6)	22(12.0)
4～5	1( 2.4)	9(20.9)	1( 2.1)	3( 5.8)	14( 7.7)
5～6	4( 9.8)	2( 4.6)	2( 4.3)	2( 3.8)	10( 5.5)
6～7	2( 4.9)	2( 4.6)	2( 4.3)	0	6( 3.3)
NA	9(21.2)	5(11.6)	7(14.9)	16(30.8)	37(20.2)

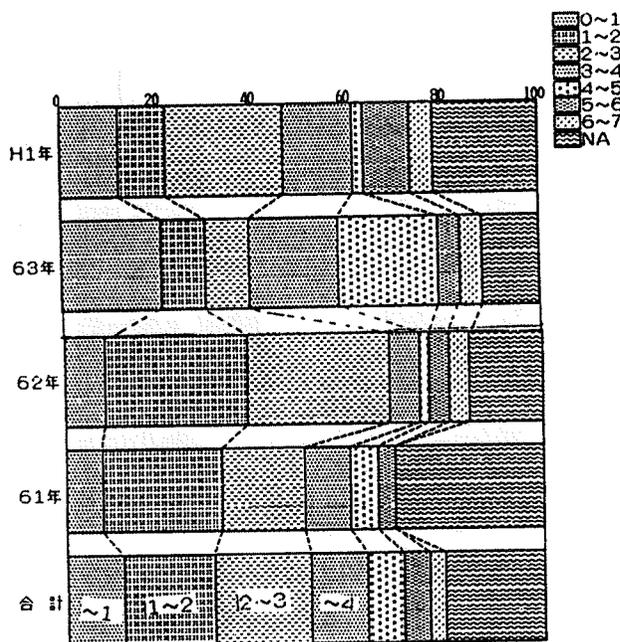


図39. その他の自由時間

## Ⅶ. 課外活動の状況

### 1. クラブ・サークル活動状況

ボランティアを含むクラブ・サークル活動に参加しているのは、1年生に「学内活動」が約30%、2年生に「学外の活動参加」が28%いるが、その他は1・2年生で30%、3・4年生にいたっては70%が途中でやめたり、最初から参加していない。

1・2年生の3割が学外活動にも加わっていることが注目される位で、本学での課外活動は低調であると言えよう。

表43. クラブ・サークル活動状況

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
学内活動に参加	13(31.7)	7(16.3)	3(6.4)	7(13.5)	30(16.3)
学外活動に参加	9(22.0)	12(27.9)	7(14.9)	6(11.5)	34(18.3)
内外の活動に参加	6(14.6)	8(18.6)	1(2.1)	2(3.8)	17(9.3)
参加していたがやめた	5(12.2)	9(20.9)	29(61.7)	24(46.2)	67(36.6)
最初から参加していない	7(17.1)	6(14.0)	5(10.6)	12(23.1)	30(16.3)
NA	1(2.4)	1(2.3)	2(4.3)	1(1.9)	5(2.7)

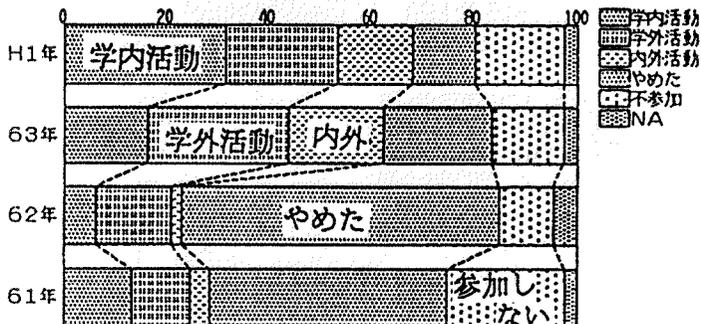


図40. クラブ・サークル活動状況

## 2. クラブ・サークルの参加目的

「興味があり楽しむ」が34%と最も多く、次が「友人を得るため」が21%で、この2項目で約半数を占める。

表44. クラブ・サークル参加目的

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
友人を得る	17(39.0)	19(34.5)	4(6.6)	9(20.0)	49(21.4)
知識・教養等	3(7.3)	4(7.9)	7(7.3)	7(15.6)	21(9.2)
人格形成のため	6(8.8)	7(12.7)	2(3.3)	5(11.1)	20(8.2)
興味・楽しむ	23(33.8)	20(36.4)	15(24.6)	19(42.2)	77(33.6)
進路に役立つ	1(1.5)	2(3.6)	0	2(4.4)	5(2.2)
健康増進のため	3(4.4)	2(3.6)	2(3.3)	1(2.2)	8(3.5)
社会貢献のため	0	1(1.8)	0	2(4.4)	3(1.3)
人にすすめられ	3(4.4)	0	0	0	1(0.4)
その他	2(2.9)	0	0	0	2(0.9)
NA	12(17.6)	0	31(50.8)	0	43(18.8)

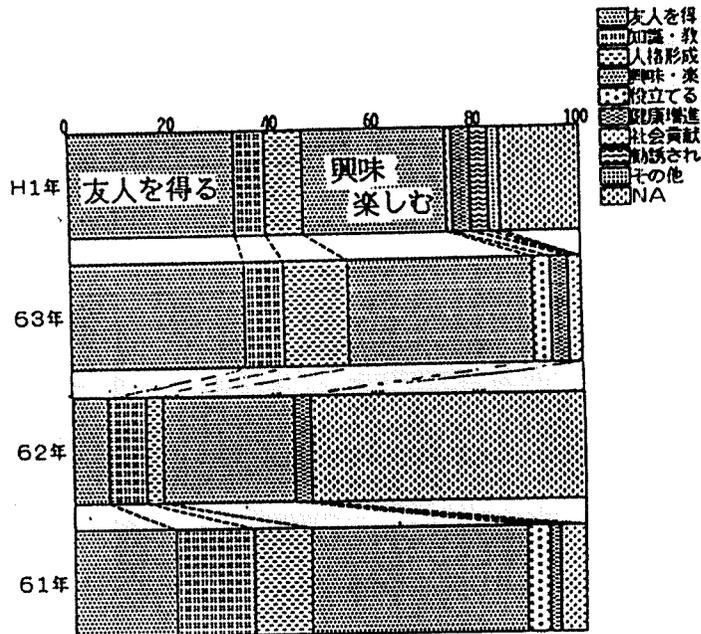


図41. 参加目的

3. 以前参加していたがやめた主な理由

3・4年生が「学業と両立しない」と「アルバイト・通学時間等のため時間的に困難」を合せると各40%、23%である。3・4年生の理由の一つには専門の看護学実習があることが推測される。

表45. クラブ・サークル活動をやめた理由

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
あり方に疑問あり	3(7.3)	3(7.0)	1(2.1)	4(7.7)	11(22.3)
興味なくなる	2(4.9)	6(14.0)	6(12.8)	7(13.5)	21(11.5)
学業と両立困難	0	1(2.3)	10(21.3)	6(11.5)	17(9.3)
時間的に困難	3(7.3)	3(7.0)	9(19.1)	6(11.5)	21(11.5)
経済的負担	0	0(0)	0	2(3.8)	2(1.1)
その他	0	1(2.3)	5(10.6)	5(9.6)	11(6.0)
NA	33(80.5)	29(67.4)	16(34.0)	22(42.3)	100(59.6)

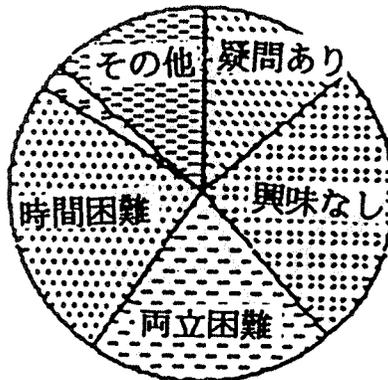


図42. クラブをやめた理由

#### 4. 最初から参加していない主な理由

10%の人が「課外活動に興味がない」「入りたいと思うクラブ・サークルがない」と答えている。

表46. クラブ・サークル活動に参加しない理由

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
課外活動に興味がない	1(2.4)	2(4.7)	1(2.1)	3(5.8)	7(3.8)
クラブ・サークルがない	4(9.8)	2(4.7)	0	5(9.6)	11(6.0)
学業と両立しない	0	1(2.3)	1(2.1)	0	2(1.1)
時間的に困難	1(2.4)	1(2.3)	2(4.3)	0	4(2.2)
経済的に負担	0	0	0	0	0
その他	1(2.4)	1(2.3)	2(4.3)	4(7.7)	8(4.4)
NA	34(82.9)	36(83.7)	41(87.2)	40(76.9)	151(82.5)

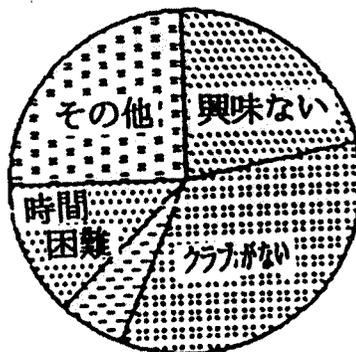


図43. 最初から参加していない理由 (回答者32名)

5. 今年度の夏季休暇中の主な行動

各学年合計で最も多いのは、「アルバイト」が22.3%，次が「国内旅行」19.3%，「正課のための勉強」17.4%であった。

各学年の特徴は、1・2年生は「国内旅行」が25%で最も多く、3・4年生は「正課のための勉強」が26%～18%と多い。また3・4年生の「海外旅行」も13および15%と比較的多い。

表47. 夏季休暇中の主な行動 (%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
アルバイト	22(21.6)	23(23.0)	22(19.6)	29(25.0)	96(22.3)
国内旅行	25(24.5)	25(25.0)	15(13.4)	18(15.5)	83(19.3)
海外旅行	4(3.9)	7(7.0)	15(13.4)	18(15.5)	44(10.2)
資格技術の習得	3(2.9)	2(2.0)	4(3.6)	4(3.4)	13(3.0)
車・二輪の免許	9(8.8)	6(6.0)	2(1.8)	3(2.6)	20(4.7)
勉強	17(16.7)	8(8.0)	29(25.9)	21(18.1)	75(17.4)
クラブ・サークル	14(13.7)	14(14.0)	7(6.3)	7(6.0)	42(9.8)
その他	8(7.8)	15(15.0)	18(16.1)	16(13.8)	57(13.3)

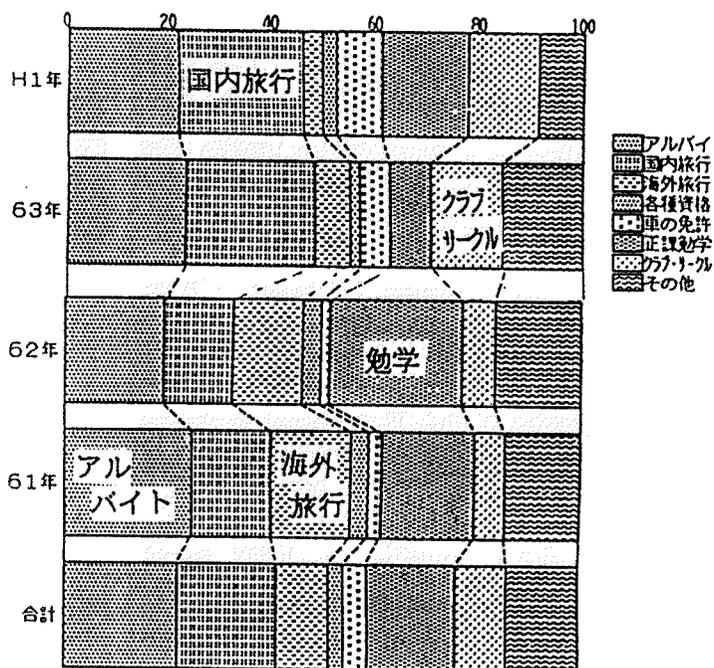


図44. 夏期休暇中の行動

6. 資格や技術取得のための講座や各種学校・塾などでの学習

全学年の平均42%が「どこにも通ったことがない」であるが、活動している中では「スポーツ・エアロビクス・ダンス等」には平均で11.4%，3年生に「語学」が16%，4年生に「茶華道・洋和裁・料理」が15% あることが注目される。

表48. 講座や塾での学習

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
何もしていない	22(50.0)	26(57.8)	20(35.7)	21(31.8)	89(42.2)
語学	6(13.6)	1( 2.2)	9(16.1)	6( 9.1)	22(10.4)
音楽・美術・工芸・書道	4( 9.1)	1( 2.2)	2( 3.6)	4( 6.1)	11( 5.2)
茶・華・洋和裁・料理	2( 4.5)	4( 8.9)	3( 5.9)	10(15.2)	19( 9.0)
タイ・ワカ・コンピュータ	1( 2.3)	0	2( 3.6)	1( 1.5)	4( 1.9)
珠算・簿記・速記	0	0	0	0	0
スポーツ・エアロビクス・ダンス等	3( 6.8)	7(15.6)	7(12.5)	7(10.6)	24(11.4)
各種資格の予備校	1( 2.3)	1( 2.2)	6(10.7)	2( 3.0)	10( 4.7)
その他	5(11.4)	5(11.1)	7(12.5)	15(22.7)	32(15.2)

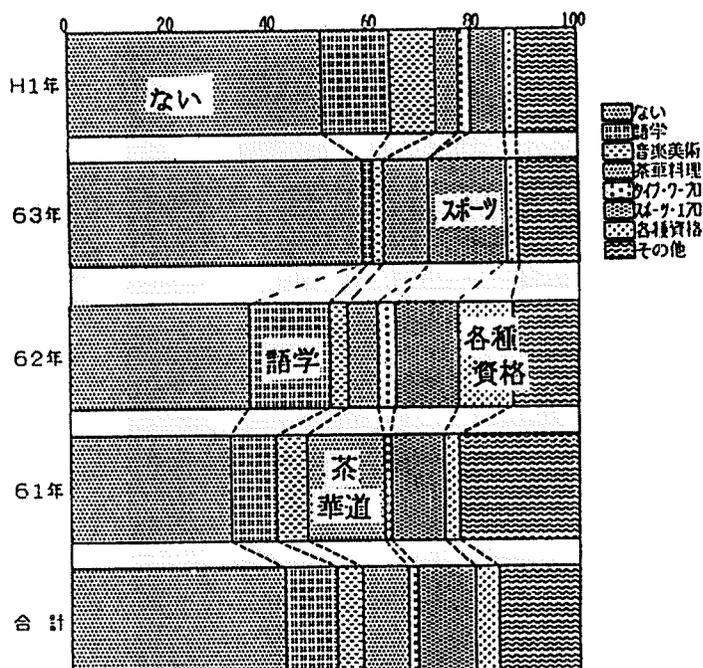


図45. 各種学校・塾での学習

7. 希望する課外教育プログラム

全学年合計では「海外研修」が最も多く27.6％、次に「映画、音楽会など」が24％である。

3・4年生では「海外研修」が35～40％と断然多く、1・2年生では「映画、音楽会」が多い。3年生には「講演会、教養講座」を希望している人も多い。

表49. 希望する課外教育プログラム

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
講演会、教養講座等	12(18.8)	6(10.9)	13(19.1)	5( 8.5)	36(14.6)
映画、音楽会など	19(29.7)	18(32.7)	12(17.6)	11(18.6)	60(24.4)
ハイキング・キャンプ	7(10.9)	10(18.2)	5( 7.4)	8(13.6)	30(12.2)
スポーツ講習会など	2( 3.1)	6(10.9)	5( 7.4)	7(11.9)	30(12.2)
海外研修	15(23.4)	15(27.3)	29(35.3)	24(40.7)	68(27.6)
その他	0	0	1( 1.5)	2( 3.4)	3( 1.2)
NA	9(14.1)	0	8(11.8)	2( 3.4)	19( 7.7)

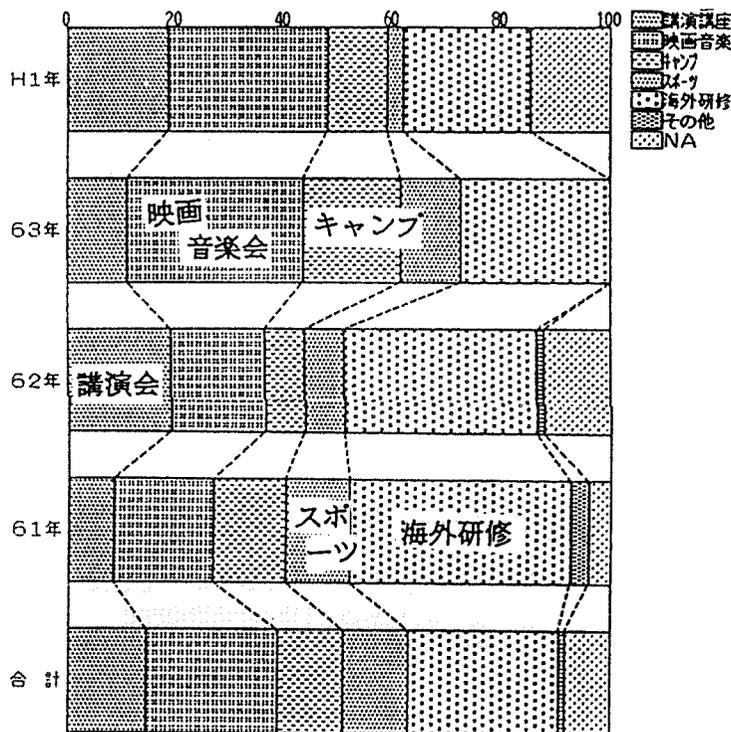


図46. 希望する課外教育プログラム

## VIII. 海外旅行について

### 1. 海外旅行の経験状況

入学以来、海外旅行をした者は、4年生が約6割、3年生が半数、全学年の平均でも40%で、比較的高率である。延べ人数は109人である。

全国私大調査の平均の15%、関東地方女子大生の25%に対して、本学は高い比率を示している。

学年別回数では、4年生のうち34人で延べ57回、そのうち2回行った者が7人、3回が5人、4回が2人で、海外旅行は学年が進む毎に増加している。

本調査Ⅶ—5の夏期休暇中の行動とも一致するが、3・4年生で海外旅行の経験者が増加している。

表50 海外旅行の有無

(単位：人)

有無	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
ある	3(7.3)	13(30.2)	24(51.1)	34(65.4)	74(40.4)
ない	38(92.7)	30(69.8)	23(48.9)	18(34.6)	109(59.6)

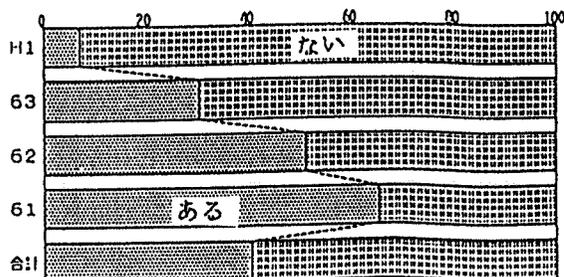


図47 海外旅行の有無

表51 海外旅行の経験回数

(単位：人)

回数	H 1年度	6 3年度	6 2年度	6 1年度	合計
1回	3(100.)	11(84.6)	16(66.7)	20(58.8)	50(67.6)
2回	0	0	5(20.8)	7(20.5)	12(16.2)
3回	0	1	3(12.5)	5(14.7)	9(12.1)
4回	0	0	0	2( 5.9)	2( 2.7)
NA		1			1( 1.4)
合計	3人	13人	24人	34人	74人

## 2. 行先, 目的, 日数, 費用, 主催

- 1) 行先はヨーロッパ (28人), 東南アジア (24人), 北米 (23人) が主な所で, 次いで太平洋諸島 (ハワイ・グアム・サイパン等17人) が多い。

学年別に行先を見ると, 4年生は東南アジアと北米, 3年生はヨーロッパが多い。

- 2) 目的は, 観光の60%が最も多く, home stay を含めた語学研修が24%で, この2項目が目的の主なものである。

行先と目的を合せてみると, 北アメリカは語学研修, ヨーロッパには主に観光と語学研修である。東南アジアには主には観光であるが, ボランティア, ゼミ, 課外活動でも行っている。4年生のアジア・アフリカ研究会の活動がこれに当たるだろう。

- 3) 1回毎の日数は, 7~10日が20%で最も多く, 次いで26~30日が17%であり, 半数は4~15日間である。

- 4) 費用は, 41%が6~20万円, 32%が46万円以上と, 2つのピークがある。

費用は日数と概ね比例しており, 主に「4~15日で6~20万円」「26日以上で46万円以上」の両極にピークがある。しかし, 30日以内でも25万円以下のこともあり, 目的や主催・方法によって経済的な旅行をしていることが推測される。

- 5) 旅行の主催・企画は, 44%が民間旅行会社で, 34%が個人で, この2つが主な所である。

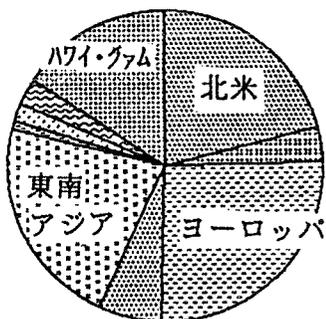


図48 海外旅行 行先 (経験者 109名)

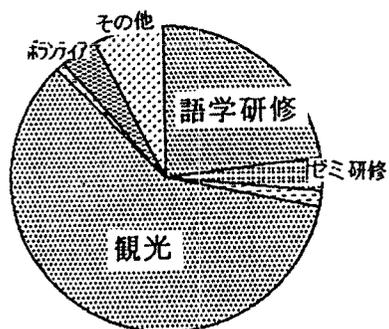


図49 海外旅行の目的 (経験者 109名)

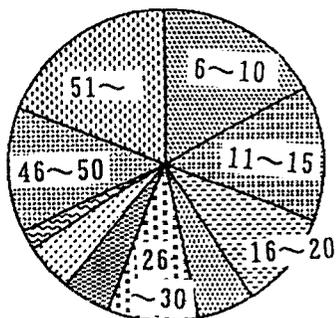


図50 海外旅行1回の費用 (単位：万円)

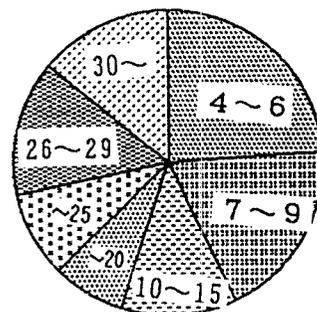


図51 海外旅行の日数

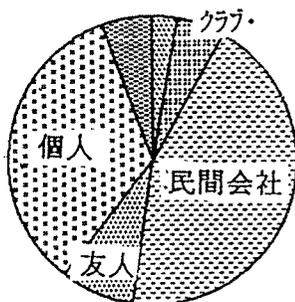


図52 海外旅行主催・企画

表52 学年別・行き先 (単位：回)

行先 \ 学年	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
北米	0	3	8	12	23
中南米	0	2	0	2	4
ヨーロッパ	1	2	16	9	28
東北アジア (中国・韓国)	0	0	0	7	7
東南アジア	0	4	7	13	24
中近東	0	0	0	1	1
アフリカ	0	0	0	2	2
オセアニア (オーストラリア・ニュージーランド)	2	0	0	1	3
太平洋諸島 (ハワイ・タム・サイパン)	0	3	4	10	17
合計	3	14	35	57	109

表53 行先と目的 (単位：回)

行先 \ 目的	語学 研修	ゼミ 研修	課外 活動	観光	アルバイト	ボランティア	その他	合計
北米	11	2	0	9	0	0	1	23
中南米	1	0	0	3	3	0	0	4
ヨーロッパ	12	0	0	16	0	0	0	28
東北アジア (中国・韓国)	0	0	0	5	1	0	1	7
東南アジア	0	2	2	12	0	3	5	24
中近東	0	0	0	0	0	1	0	1
アフリカ	0	0	0	2	0	0	0	2
オセアニア (オーストラリア・ニュージーランド)	1	0	0	1	0	0	1	3
太平洋諸島 (ハワイ・タム・サイパン)	0	0	0	17	0	0	0	17
合計	25	4	2	65	1	4	8	109

表54. 行先と日数

(単位：回)

行先	日数								合計
	2～3	4～6	7～10	10～15	16～20	21～25	26～30	30～	
北米	0	0	3	1	3	2	10	4	23
中南米	0	0	1	2	0	0	0	1	4
ヨーロッパ	0	0	8	3	1	5	3	8	28
東北アジア (中国・韓国)	0	4	0	0	2	0	1	0	7
東南アジア	0	7	5	7	2	1	0	2	24
中近東	0	0	0	0	0	1	0	0	1
アフリカ	0	0	2	0	0	0	0	0	2
オセアニア (オーストラリア・ニュージーランド)	0	0	0	0	0	1	2	0	3
太平洋諸島 (ハワイ・タム・サイロン等)	0	15	2	0	0	0	0	0	17
合計	0	26	21	13	8	10	16	15	109

表55. 目的と日数

(単位：回)

目的	日数							合計
	4～6	7～10	11～15	16～20	21～25	26～30	30～	
語学研修 (home stay)	0	0	0	2	3	9	11	25
ゼミ研修	0	1	2	1	0	0	0	4
課外活動	0	0	1	1	0	0	0	2
観光	24	18	9	1	4	6	2	64
アルバイト	0	0	0	1	0	0	0	1
ボランティア活動	0	1	2	0	2	0	0	5
その他	1	1	1	1	1	1	2	8
合計	25	21	15	7	10	16	15	109

表56 費用と日数 (単位：回)

費用 \ 日数	4日 ～6	7日 ～10	11日 ～15	16日 ～20	21日 ～25	26日 ～30	31日 以上	合計
6～10万円	11	3	2	0	1	0	0	17
11～15	9	2	0	2	1	0	0	14
16～20	2	2	3	2	1	0	0	10
21～25	0	2	2	0	0	2	0	6
26～30	0	2	4	0	2	1	0	9
31～35	0	2	0	0	1	2	0	5
36～40	0	2	0	0	0	2	1	5
41～45	0	0	0	1	0	1	0	2
46～50	0	1	0	1	2	3	6	13
51～	0	4	4	0	1	6	4	19
合計	11	20	15	6	9	17	11	100 + NA9

表57. 目的と費用 (単位：回)

費用 \ 目的	語学 研修	ゼミ 研修	課外 活動	観光	アルバイト	ボランティア	その他	合計
6～10万円	0	0	0	12	0	3	2	17
11～15	0	0	0	11	1	1	1	14
16～20	0	0	2	6	0	0	1	9
21～25	0	3	0	3	0	0	1	7
26～30	0	0	0	7	0	1	1	9
31～35	3	0	0	2	0	0	0	5
36～40	2	0	0	3	0	0	0	5
41～45	2	0	0	0	0	0	0	2
46～50	11	0	0	4	0	0	0	15
51～	6	1	0	10	0	0	0	17
合計	24	4	2	58	1	5	6	100+NA9

表58. 目的と主催・企画

(単位：回)

目的 \ 主催・企画	大学	クラブ・サークル	旅行会社	友人	個人	その他	合計
語学研修 (home stay)	0	0	11	0	13	1	25
ゼミ研修	1	0	0	0	0	3	4
課外活動	1	1	0	0	0	0	2
観光	1	1	36	9	17	0	64
アルバイト	0	0	0	0	1	0	1
ボランティア活動	0	2	1	0	1	1	5
その他	0	2	0	0	5	1	8
合計	3	6	48	9	37	6	109

## IX. 大学生活について

## 1. 本学を選んだ理由

全体的には「就職や将来のことを考えて」が36%と最も多く、次は27%の「教育内容や専攻分野」である。

全国私大調査においては、「教育内容や専攻分野」が39%、「就職や将来のことを考えて」が30%、「大学の特色」の順であることから、本学の選択の理由はいずれも看護という専門分野の教育であることによると考えられる。

「大学の特色」は本学では7%であり、私大調査の29%に比較すると選択の理由としては極度に低いと考えられる。

2・3・4年生の1位が「就職や将来のことを考えて」に対し、1年生では「教育内容や専攻分野」であることは、4年制大学の看護学部が存在が一般に知られてきたためであろうか。4年生の2位に「学費のことを考えて」があるが、80%が日本赤十字社の社費あるいは貸費制の奨学金を受けていることと関係しているとも考えられる。

表59. 本学を選んだ理由

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
大学の特色	2(4.9)	6(14.0)	3(6.4)	2(3.8)	13(7.1)
教育内容や専攻分野	19(46.3)	12(27.9)	13(27.7)	6(11.5)	50(27.3)
学費のことを考えて	0	1(2.3)	4(8.5)	15(28.8)	20(10.9)
就職や将来のため	16(39.0)	14(32.6)	18(38.3)	17(32.7)	65(35.5)
寮がある	1(2.4)	2(4.7)	0	0	3(1.6)
立地条件が良い	0	1(2.3)	1(2.1)	1(3.8)	3(1.6)
周囲のアドバイス	2(4.9)	4(9.3)	4(8.5)	6(11.5)	16(8.7)
その他	1(2.4)	2(4.7)	4(8.5)	4(7.7)	11(6.0)
NA	0	1(2.3)	0	1(1.9)	2(1.1)

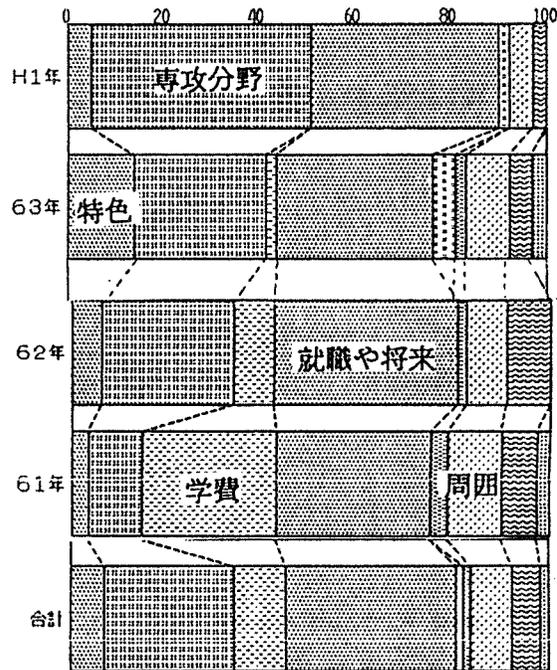


図53. 本学を選んだ理由

## 2. 本学に入学したことについて

全体の平均では50%が「どちらともいえない」、35%が「よかった」と答えている。1・3年生の「良かったと思う」より「どちらともいえない」の方が多いのに対し、2年生では「良かったと思う」が「どちらとも言えない」を上回っており、肯定的な意識である。これは専門領域の学習に入る前と後の違いによるものであろうと考えられる。

4年生の「どちらともいえない」が56%と高率を占め、なお「よかったと思う」と「よかったとはいえない」が同数であることは第1回生として、建学初期の様々な困難を体験しており、また卒業前の複雑な思いを反映しているからであろうと推測される。

私大調査の「よかった」が56%、「どちらともいえない」30%、「満足していない」13%と比較すると、本学ではどちらかといえばネガティブな反応が強いようである。

表60. 本学入学に関する感想

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
よかった	17(41.5)	20(46.5)	17(36.2)	11(21.2)	65(35.9)
よかったとはいえない	2(4.9)	5(11.6)	6(12.8)	11(21.2)	24(13.3)
どちらともいえない	22(53.7)	17(39.5)	24(51.1)	29(55.8)	92(50.8)

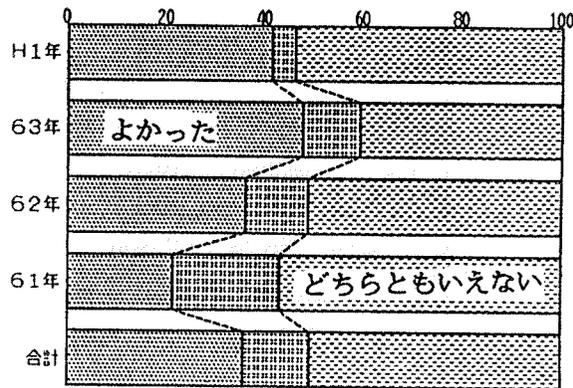


図54 本学に入学して

### 3. 本学での勉学を続けることについて

1・2年生は90%以上が「このまま進む」と考えているのに対し、3・4年生には「他の大学へ転学・転部したい」「進路を変更したい」と考えるものが増えてきている。

私大調査の「他の大学へ転学・転部希望」の1.3%に比較すれば、本学は断然高率である。本学の何が問題なのか、あるいは他の大学や看護学部との比較などで、看護系の問題なのか等、今後追求する必要がある。

表61. 本学での勉学を続けることについて

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
このまま進む	39(95.1)	39(90.7)	31(66.0)	26(50.0)	135(73.8)
他大転学・転部	1(2.4)	2(4.7)	7(14.9)	9(17.3)	19(10.4)
進路変更したい	1(2.4)	1(2.3)	9(19.1)	15(28.8)	26(14.2)
NA		1(2.3)		2(3.8)	3(1.6)

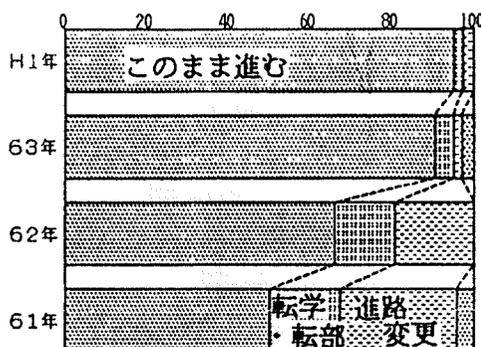


図55. 本学での勉学を続けることについて

## 4. 大学生活の中で大切だと思っていることについて

「交友関係」が最も多く、次いで「教養を深める」「専門的知識や技術の習得」がほぼ同じ程度である。学年間の違いは認められない。また、私大調査とも同様の傾向である。

表62. 大学生活で大切だと思っていること（2項目）

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
特にない	1(1.2)	0	4(4.3)	0	5(1.4)
専門知識技術の習得	22(26.8)	22(26.8)	27(28.7)	25(25.5)	96(27.0)
教養を深める	24(29.3)	22(26.8)	28(29.8)	25(25.5)	99(27.8)
クラブ・サークルで活躍	3(3.7)	0	2(2.1)	1(1.0)	6(1.7)
自由を満喫する	4(4.9)	6(7.3)	3(3.2)	12(12.2)	25(7.0)
交友関係	26(31.7)	25(30.5)	26(27.7)	31(31.6)	108(30.3)
その他	2(2.4)	3(3.7)	4(4.3)	1(1.0)	10(2.8)
NA	0	4(4.9)	0	3(3.1)	7(2.0)

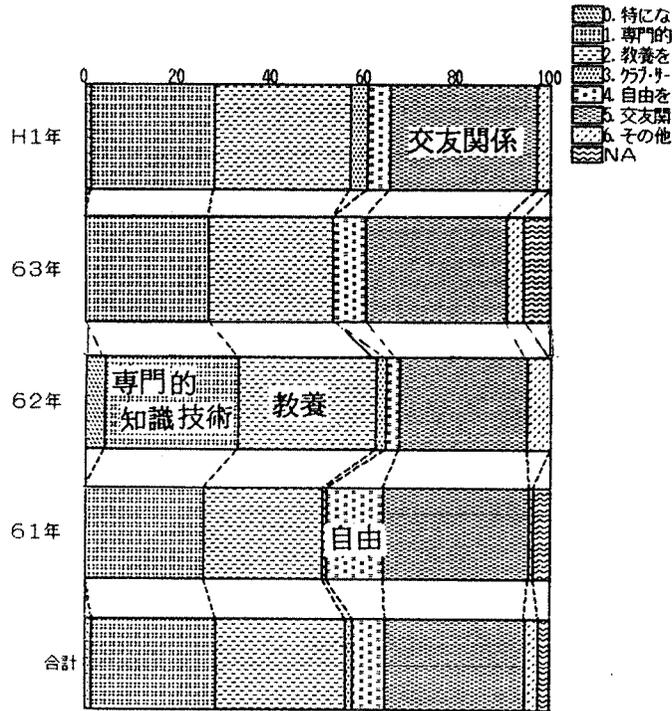


図56. 大学生生活で大切だと思っていること

5. 学生生活の充実度

全学年とも「まあまあというところ」が3年生の63%から4年生の48%まで、いずれも最も多い。3・4年生の「とても充実」と「かなり充実」の肯定的反応の合計はともに約23%と同じ位であるのに対し、4年生の「あまり充実していない」と「全然充実していない」の合計が約25%を示していることは何が原因であろうか、検討する必要がある。

表63. 学生生活の充実度 (%)

充実度	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
とても	1(2.4)	0	3(6.4)	4(7.7)	8(4.4)
かなり	10(24.0)	9(20.9)	8(17.0)	8(15.4)	35(19.1)
まあまあ	25(61.0)	24(55.8)	30(63.8)	25(48.1)	104(56.8)
あまり	5(12.2)	6(14.0)	3(6.4)	10(19.2)	24(13.1)
全然	0	3(7.0)	3(6.4)	3(5.6)	9(4.9)
NA	0	1(2.3)	0	2(3.8)	3(1.6)

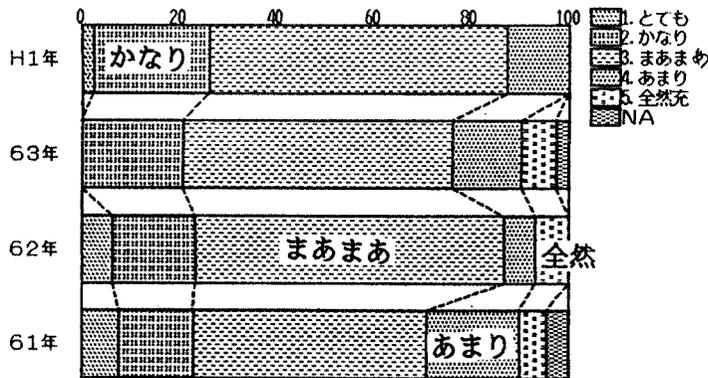


図57. 学生生活の充実度

### 6. 大学に対する期待や要望について

全体としては、「カリキュラムの改善」が29%で最も多く、「教授陣の充実」と「学生寮の改善」が15%で、この3項目で大半を占めている。

4年生の45%が「カリキュラムの改善」を挙げており高率である、これは第1回生であったことから、かなりカリキュラム上の問題があったことが考えられる。

また、「学生寮の改善」は1年生では22%で最多、2年生でも19%と多い。これは、現に在寮していることから、前述したⅡ-1の「寮生活の満足度」とも比例している。

全国私大調査と比較すると、「カリキュラムの改善」と「教授陣の充実」が本学に高く、就職指導の充実が私大に高く、他は大きな差はない。(私大調査には学生寮の項目はない)

表64. 大学への期待や要望 (2項目)

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
特にない	6(7.3)	0	2(2.2)	0	8(2.3)
教授陣の充実	8(9.8)	18(21.4)	17(18.2)	11(11.6)	54(15.2)
カリキュラムの改善	16(19.5)	22(26.2)	21(22.4)	43(45.3)	102(28.7)
課外教育プログラムの充実	7(8.5)	5(6.0)	5(5.4)	0	17(4.8)
施設・設備の充実	5(6.1)	3(3.6)	15(16.1)	4(4.2)	27(7.6)
福利厚生 of 充実	4(4.9)	6(7.1)	7(7.5)	13(11.7)	30(8.4)
課外活動の充実	8(9.8)	7(8.3)	5(5.4)	3(3.2)	23(6.5)
奨学金貸付費等の充実	3(3.7)	4(4.8)	1(1.2)	3(3.2)	11(3.1)
就職指導の充実	6(7.3)	0	11(10.7)	3(3.2)	20(5.6)
学生寮の改善	18(22.0)	16(19.0)	8(8.5)	10(10.5)	52(14.6)
その他	1(1.2)	0	2(2.2)	1(1.1)	4(1.2)
NA	0	3(3.6)	0	4(4.2)	7(2.0)

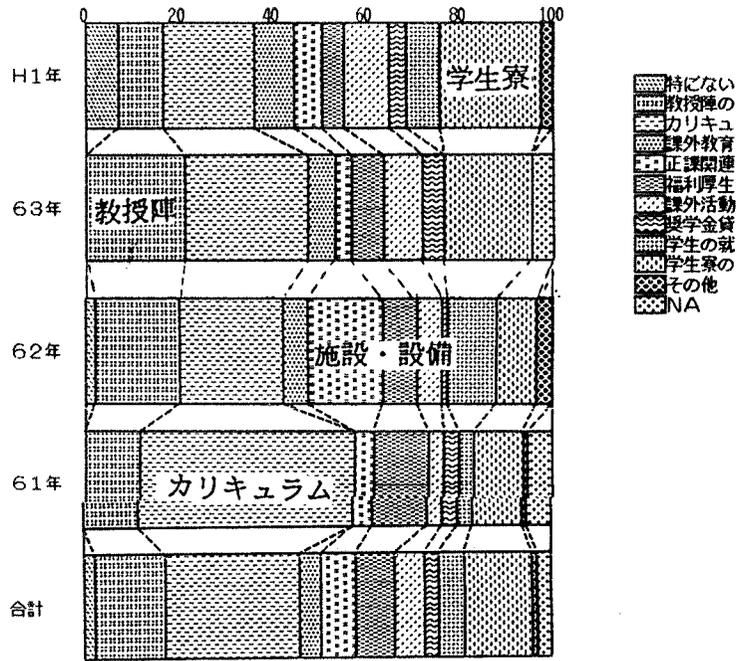


図58. 大学への期待や要望

## X. 卒業後の進路について

### 1. 卒業後の予定

大多数の9割が就職である。これは社費・貸費制度のため、卒業後は病院勤務を約束しているためであることと、本学にまだ大学院がないこと等が関係していると考えられる。

4年生は調査時期には既に進路が決っていたが、1・2・3年生は、就職か進学かまだ決めかねている者もいる。

表65. 卒業後の予定

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
就職	33(80.5)	35(81.4)	43(91.5)	49(94.2)	160(87.4)
大学院へ進学	4( 9.8)	0	0	0	4( 2.2)
その他へ進学	2( 4.9)	0	0	1( 1.9)	3( 1.6)
その他	0	0	0	0	0
まだ決めていない	2( 4.9)	7(16.3)	3( 6.4)	1( 1.9)	13( 7.1)
NA	0	1( 2.3)	1( 2.1)	1( 1.9)	3( 1.6)

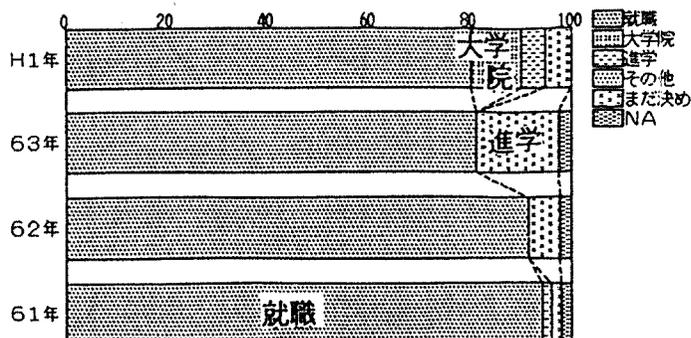


図59. 卒業後の予定

2. 就職の職種と就職先

就職する場合の職種は殆ど全員が看護婦である。

勤務先は、4年生は85%が日赤系の病院に決定している他、1年生でも実際には59人中34人(58%)が日赤医療センターの貸費および日赤各県支部の社費生である。社費制度が進路に大きく影響しているといえる。

表65. 就職する場合の職種 (%)

職種	H1年度	63年度	62年度	61年度
看護婦	22(53.7)	26(60.5)	32(68.1)	49(94.2)
保健婦	0	0	0	1(1.9)
助産婦	1(2.4)	0	0	0
看護教員	0	0	0	0
その他	1(2.4)	0	1(2.1)	0
NA	17(41.5)	17(39.5)	14(29.8)	2(3.8)

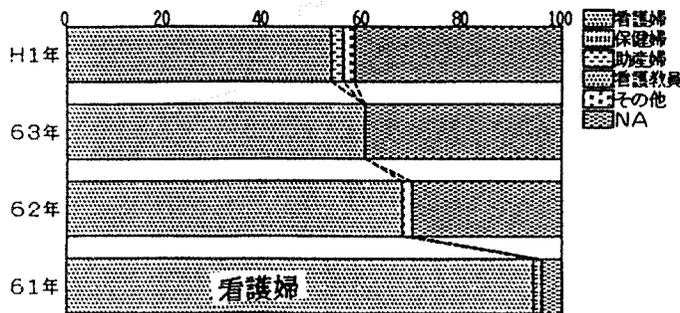


図60. 就職職種

表66. 勤務先

勤務先	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
日赤系の病院	21(51.2)	24(55.8)	30(63.8)	44(84.6)	119(65.0)
国立・公立病院	2( 4.9)	1( 2.3)	0	1( 1.9)	4( 2.2)
大学病院	0	0	0	2( 3.8)	2( 1.1)
以外の病院・診療所	1( 2.4)	0	3( 6.4)	1( 1.9)	5( 2.7)
保健所	0	0	0	0	0
役所（県庁・区・市役	0	0	0	0	0
看護教育機関	0	0	0	0	0
小・中・高等学校	0	0	0	0	0
その他	1( 2.4)	0	0	1( 1.9)	2
NA	16(39.0)	18(41.9)	14(29.8)	3( 5.8)	51(27.9)

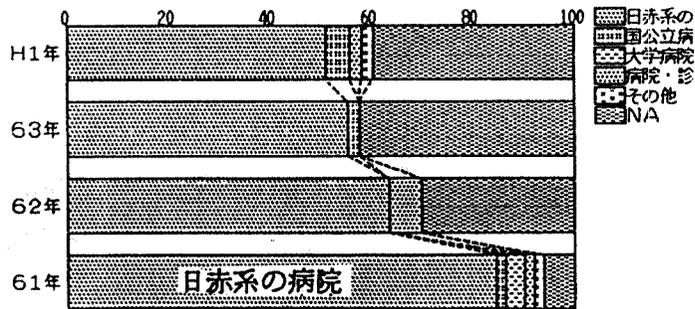


図61. 就職先

### 3. 卒業後の進学について

1年生と4年生に数人の希望があるのみである。

- 本学に大学院課程が設置されていたり、卒業後の臨床実務が終了した時点で再度調査する必要があるだろう。

# 学生生活実態調査

平成元年11月 2日  
日本赤十字看護大学

この調査は、本学学生の学生生活の実態について、全般的な傾向を把握すると共に学生生活に関する基礎的データとして、本学教育の指針あるいは改善に資することを目的として行なうものです。他の目的のために使用することはありませんので、ありのままに記入してください。

回答は該当する番号や数字を右の□の中に記入してください。自由記載の部分は( )内に記入してください。

あなたは □ 年次生

## I. 住居についてお尋ねします。

1. 自宅から通学していますか、自宅以外の場合はどんな住居ですか。

1. 自宅
2. 下宿・アパート・マンション
3. 大学の学生寮
4. 親戚・知人宅
5. 団体寮( 県人会など)
6. その他

1-1

2. 下宿・アパート・マンションの場合、住居はどのような状況ですか。

- a. 広さー 1. 4.5 畳一間      2. 6 畳一間  
          3. 2DKまたは2K      4. 3DK以上
- b. 風呂    1. 個人用    2. 共同    3. 無し
- c. トイレ  1. 個人用    2. 共同
- d. 台所    1. 個人用    2. 共同    3. 無し
- e. 同居人  1. 有り      2. 無し

1-2

a	<input type="text"/>
b	<input type="text"/>
c	<input type="text"/>
d	<input type="text"/>
e	<input type="text"/>

3. 通学に要する時間

1. 30分以内
2. 30分～1時間以内
3. 1時間～1時間30分以内
4. 1時間30分～2時間以内
5. 2時間以上

1-3

4. 住居に満足していますか。

1. 満足している。
2. 満足していない。
3. どちらともいえない。

1-4

II. 寮生活についてお尋ねします。  
(4年生は在寮当時のことを答えてください)

1. 寮生活に満足していますか。

1. 満足している
2. 満足していない
3. どちらともいえない

2. 寮生活で良いと思うことは何ですか。  
(2つ以内答えてください)

1. 友人と深いつきあいができる
2. 共同生活で、協調精神が養われる
3. 親元から離れて独立できる
4. 通学距離が短い
4. 学習・自由時間が多い
5. 経済的に安上がり
6. 都心に近い
7. その他 ( )
8. 良いと思うことは何もない。

3. 寮生活で困ること、いやなことは何ですか。  
(2つ以内答えてください)

1. 友人との人間関係
2. 寮監との人間関係
3. 寮の規則
4. 寮における役割分担
5. 室内の設備
6. 寮内の設備・管理
7. 食事
8. その他 ( )
9. 困ること、いやなことはなにもない。

4. 前問3の具体的な内容を書いてください。

5. 寮の食事についてどのように思いますか。  
(2つ以内答えてください)

1. 値段が手頃で良い
2. 好きな物が食べられるので良い
3. 種類が少なく、食べる物がない
4. 栄養のバランスがとれない
5. 量が少ない
6. その他 ( )

6. 外泊はどれくらいの割合でしますか。

1. 1か月に1~2回
2. 毎週1回
3. 週に2~3回
4. ほとんど毎日
5. 長期休暇以外は外泊しない

2-1

--

2-2

I	
II	

2-3

I	
II	

2-5

I	
II	

2-6

--

7. 全寮制についてどう思いますか。

1. 現在の全寮制が良い
2. 全員通学制が良い
3. 在学中、何年かは全寮制が良い
4. 希望者だけ入寮すれば良い
5. その他 ( )

2-7

Ⅲ. 経済生活についてお尋ねします。

1. 1か月平均の総支出額はどの位ですか。  
(学校納付金をのぞく)

3-1

千円

2. 1か月平均の食費はどの位ですか。  
(自宅外通学者は食費、自宅通学者は外食費)

3-2

千円

3. 自宅外通学の方の1か月平均の住居費はどの位ですか。  
(家賃・光熱水費等を含む)

3-3

千円

4. 1か月平均の勉学費はどの位ですか。(教科書・参考書  
コピー・文具費・研究費等、但し学校納付金を除く)

3-4

千円

5. 1か月平均の通学のための交通費はどの位ですか。

3-5

千円

6. 家族等からの1か月平均の援助金額はどの位ですか。

3-6

千円

7. 奨学金についてお尋ねします。

a. どのような奨学金を受けていますか。

1. 日赤医療センター貸費
2. 日赤支部社費
3. 日本育英会
4. その他 ( )
5. 受けていない

3-7

a

b. 受けている場合、月額に平均した金額はどの位ですか。

b

千円

8. ローン・クレジット等を利用してトラブルに巻き込まれた  
ことがありますか。

3-8

0. 利用したことがない
1. トラブルに巻き込まれたことがある
2. トラブルに巻き込まれたことはない

IV. アルバイトについてお尋ねします。

1. 入学以来アルバイトをどの程度していますか。

0. 全くしていない
1. 長期休暇中のみ
2. 授業期間中に臨時的に
3. 授業期間中に経常的に
4. 長期休暇中にも授業期間中にも

4-1

2. アルバイトをした主な目的はどれですか。

1. 学費および勉学費
2. 生活費
3. クラブ活動費
4. 旅行・レジャー費
5. 高額商品の購入
6. その他

4-2

3. 授業期間中のアルバイトの1か月平均の日数、1日当りの時間及び時間給の賃金の額

a. 1か月平均の日数

b. 1日平均の時間

c. 1時間当りの賃金

4-3

a	<input type="text"/>	日
b	<input type="text"/>	時間
c	<input type="text"/>	円

4. 授業期間中のアルバイトの職種の主なものを2つ以内記入してください。

1. 家庭教師
2. 事務：宛名書き・校正・データ集計・受付など
3. 軽労働：文書の封入・発送・箱詰め
4. 労働：運搬・清掃・引越作業・看護助手
5. サービス：ウェイトレス・接待
6. 販売：店員
7. 特技：翻訳・通訳・タイブ・ワープロなど
8. その他 ( )

4-4

i	<input type="text"/>
ii	<input type="text"/>

V. 健康状態についてお尋ねします。

1. 健康状態はどうですか

1. いつも好調で異常を感じない
2. 好調だが1年に1～2回位風邪をひく程度
3. 病気はしないが常に疲労感や不調を感じている
4. 1カ月に1～2回は病気欠席をする
5. 治療をしている病気がある

5-1

2. 前項1-5を選んだ人は、治療している病気は何ですか。

( )

3. 4年生は寮生活から通学になったことで健康上にどのような変化がありましたか。

- 1. 変らない。
- 2. 寮より通学の方が健康的。
- 3. 疲労や倦怠感が持続することが多くなった。
- 4. 病気・欠席が多くなった。

5-3

4. 健康を保つために最も気をつけたり、実行していることは何ですか

- 1. 食事・栄養
- 2. 睡眠
- 3. 運動・スポーツ
- 4. アルコール・酒
- 5. タバコ
- 6. 薬（健康薬・ビタミン剤等）
- 6. その他（
- 7. 特に何もしていない

5-4

5. 入学以来深刻な不安や悩みがありましたか。

- 1. ある
- 2. ない

5-5

6. 入学以来の不安や悩みはどのようなことですか。主なものを2つ以内を記入してください。

- 1. 学業について
- 2. 健康について
- 3. 自分の性格や能力について
- 4. 人生観について
- 5. 就職や将来の進路について
- 6. 友人等との対人関係について
- 7. 異性や性の問題について
- 8. 経済問題（家計・学費・ローンなど）
- 9. 家族や家庭内のこと
- 10. その他

5-6

イ


ロ

7. 前項の不安や悩みはどのようにして解決しましたか。主なものを2つを記入してください。

- 1. 自分自身で努力した
- 2. 家族に相談した
- 3. 先輩に相談した
- 4. 大学の教職員に相談した（アドバイザー・学生課を含む）
- 5. 友人に相談した
- 6. カウンセラーに相談した
- 7. なりゆきにまかせた
- 8. その他（

5-7

イ


ロ

Ⅶ. 学期中のある平均的な1日の生活時間についてお尋ねします。

- 1. 大学およびその周辺で過ごす時間はどの位ですか。
  - a. 授業時間（講義・演習・研究など）
  - b. 正課外の学習時間（予習・復習・自主的研究など）
  - c. 学内のクラブ・サークル活動など

6-1

a

時間

b

時間

c

時間

d. 在校時間（登校から下校までの時間）

d  時間

2. 自宅・アパート・下宿・寮などで過ごす時間はどの位ですか。

6-2

a. 睡眠時間

a  時間

b. 学習時間

b  時間

c. 自由時間

c  時間

3. その他の場所で過ごす時間はどの位ですか。

6-3

a. 通学時間（往復）

a  時間

b. サークル活動（学外のクラブ・サークル等）

b  時間

c. アルバイト

c  時間

d. その他の時間（友人との交際など）

d  時間

Ⅶ. 課外活動についてお尋ねします。

1. クラブ・サークル活動(ボランティア含む)をしていますか。

1. 学内のクラブ・サークル活動に参加 (Ⅶ-2へ)

2. 学外のクラブ・サークル活動に参加 (Ⅶ-3へ)

3. 学内・学外両方のクラブ・サークル活動に参加

4. 以前参加していたがやめた、  
ほとんど活動していない (Ⅶ-3へ)

5. 最初から全く参加していない (Ⅶ-4へ)

7-1

2. クラブ・サークルに参加した目的は何ですか。主なものを2つ以内記入してください。

1. 友人を得るため

2. 知識・教養・技術・技能を身につけるため

3. 自己の人格形成のため

4. 興味があり、楽しむため

5. 自分の進路に役立てるため

6. 健康増進のため

7. 社会への貢献のため

8. 特に動機はないが、人にすすめられたため

9. その他

7-2

イ

ロ

3. 以前参加していたがやめた主な理由は何ですか。
1. クラブ・サークルのあり方に疑問をもった
  2. クラブ・サークルに対して興味がなくなった
  3. 学業と両立しない
  4. アルバイト・通学時間等のため時間的に困難
  5. 経済的負担になる
  6. その他

7-3

4. 最初から参加していない主な理由は何ですか。
1. 課外活動に興味がない。
  2. 入りたいと思うクラブ・サークルがない。
  3. 学業と両立しない。
  4. アルバイト・通学時間等のため時間的に困難
  5. 経済的に負担。
  6. その他

7-4

5. 今年度の夏季休暇中の主な行動について、3つ以内記入してください。
1. アルバイト
  2. 国内旅行
  3. 海外旅行
  4. 各種資格や技術の習得
  5. 普通自動車・自動二輪等の免許の取得
  6. 正課のための勉強
  7. 学内・外のクラブ・サークル活動
  8. その他

7-5

イ	
ロ	
ハ	

6. 大学入学以来、資格や技術取得のために学外の講座や各種学校・塾などに通ったことがありますか。
0. どこにも通ったことがない
  1. 語学
  2. 音楽・美術・工芸・書道
  3. 茶道・華道・洋和裁・料理
  4. タイプ・ワープロ・コンピュータ
  5. 珠算・簿記・速記
  6. スポーツ・エアロビクス・ダンス等
  7. その他の各種資格の予備校
  8. その他

7-6

イ	
ロ	
ハ	

7. 課外教育プログラムについてどのようなものを希望しますか。2つ以内記入してください。
0. 特に希望することはない。
  1. 講演会、教養講座等
  2. 映画、音楽会など
  3. ハイキング・キャンプ等
  4. スポーツ講習会など
  5. 海外研修
  6. その他 ( )

7-7

イ	
ロ	

Ⅷ. 入学以来の海外旅行についてお尋ねします。

8-1

1. 海外旅行をしたことがありますか。

1. ある  
2. ない

2. 前項 1-1 を選んだ方は、どこに、何のために、何日間、どこの主催で行きましたか。組み合わせて回答欄に記入してください。

- a. 行先 1. 北米 2. 中南米 3. ヨーロッパ  
4. 東北アジア (中国・韓国) 5. 東南アジア  
6. 中近東 7. アフリカ  
8. オセアニア (オーストラリア・ニュージーランド)  
9. 太平洋諸島 (ハワイ・グアム・サイパン等)  
0. その他
- b. 目的 1. 語学研修 (home stay)  
2. ゼミ研修 (洋上大学を含む)  
3. 課外活動 (遠征、演奏、大会等)  
4. 観光  
5. アルバイト  
6. ボランティア活動  
7. その他
- c. 日数 (1 回毎の日数を記入してください)
- d. 旅行の主催・企画はどこですか。  
1. 大学 2. クラブ・サークル  
3. 民間旅行会社 4. 友人  
5. 個人 6. その他 ( )

e. 費用はどれくらいかかりましたか。(単位：万円)

8-2

回目	1	2	3	4
a. 行先				
b. 目的				
c. 日数				
d. 主催				
e. 費用				

Ⅷ. 大学生活についてお尋ねします。

1. 本学を選んだ理由は何ですか。

1. 大学の特色
2. 教育内容や専攻分野
3. 学費のことを考えて
4. 就職や将来のことを考えて
5. 寮があるため
6. 大学の立地条件が良いため
7. 周囲のアドバイス
8. その他

9-1

2. 本学に入学してよかったと思いますか。

1. よかったと思う
2. よかったとはいえない
3. どちらともいえない

9-2

3. 本学での勉学を続けることについてどのように考えていますか。(4年生は在学中に考えたことを書いてください)

1. このまま進む
2. 他の大学へ転学・転部したい
3. 進路を変更したい

9-3

4. 大学生活の中であなたが大切だと思っていることは何ですか。主なもの2つ選んでください。

0. 特にない。
1. 専門的知識や技術を習得する
2. 教養を深める
3. クラブ・サークル等で活躍する
4. 自由を満喫する
5. 交友関係
6. その他

9-4

イ	<input type="text"/>
ロ	<input type="text"/>

5. あなたの学生生活は充実していますか。

1. とても充実している
2. かなり充実している
3. まあまあというところ
4. あまり充実していない
5. 全然充実していない

9-5

6. 大学に対する期待や要望について、主なもの2つ以内記入してください。

0. 特にない。
1. 教授陣の充実
2. カリキュラムの改善
3. 講演会、教養講座等課外教育プログラムの充実
4. 正課関連施設・設備の充実
5. 福利厚生施設・設備の充実
6. 課外活動施設・設備の充実
7. 奨学金・貸付金・融資資金等の充実
8. 学生の就職指導の充実
9. 学生寮の改善
10. その他 (

9-6

イ	<input type="text"/>
ロ	<input type="text"/>

)

X. 卒業後の進路についてお尋ねします。  
(2年生は現在の予定を教えてください)

1. 卒業後はどのようにする予定ですか。

1. 就職
2. 大学院へ進学
3. その他へ進学
4. その他(就職も進学もしない)
5. まだ決めていない

2. 就職が決まっている場合は以下を教えてください。

a. 職種は何ですか

1. 看護婦
2. 保健婦
3. 助産婦
4. 看護教員
5. その他

b. 勤務先はどこですか。

1. 日赤系の病院
2. 国立・公立病院
3. 大学病院
4. 上記以外の病院・診療所
5. 保健所
6. 役所(県庁・区役所・市役所など)
7. 看護教育機関
8. 小・中・高等学校
9. その他

3. 進学が決まっている場合はどこですか。

1. 大学院
2. その他の大学
3. 助産婦学校
4. その他

10-1

10-2

a

b

10-3

ありがとうございました。



第1回学生生活実態調査報告書 1990年度  
1992年2月14日 発行  
編集 日本赤十字看護大学学生委員会  
発行 日本赤十字看護大学  
東京都渋谷区広尾4-1-3 ☎03-3409-0875  
印刷 株式会社 ひろせ印刷  
東京都港区芝2-17-1 ☎03-3452-7791